

「新しい国語」
指導計画作成資料
年間指導計画編

目次

○1・2年	年間指導計画	1
○3・4年	年間指導計画	7
○5・6年	年間指導計画	11
○2・3年	年間指導計画	15
○4・5年	年間指導計画	20

1・2年 複式年間指導計画案

*…複式学級の特性に応じて配慮が必要となる場合の留意事項

I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い

II…同領域異教材だが、一部一斉に行う扱い

III…同領域同教材（1・2年同時に行い、「わたり」を行わない扱い）

IV…異領域異教材など（I、II、IIIのどれにも当てはまらない扱い）

月	単元名・教材名 1年	配当時数	単元名・教材名 2年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
	さあはじめよう 読	2	すきなこと、なかに 話聞	3 (+1)	III	*両学年の時間をそろえて学習するために、2年は予備時間から1時間増配して3時間扱いで行う。 〔1年〕 さあはじめよう／よろしくね 〔2年〕 すきなこと、なかに 国語学習のスタートは、1・2年生いっしょに行う。初めに、1年「さあ はじめよう」の文章を読み、みんなといっしょに声を出す楽しみを味わう。2年生は1年生に、言葉のリズムを楽しみながら音読するモデルを示すようにしたい。この後の学習の始まりにも、繰り返し音読するようにする。次に、教師の自己紹介を聞き、単元の学習の見通しを持つ。1年生は名前と好きなもの、2年生は名前と好きなことを伝え合う。図工の時間に描いた好きなもの（こと）の絵を見せながら自己紹介をし合う。さらに2年生は、相手の発言を受け、話をつなげて対話することもねらいとして取り組む。
	よろしくね 話聞	1				
4	ひとつつながることば 話聞	2	いくつあつめられるかな 書 ○お話を音読しよう 読 風のゆうびんやさん	2 10	IV	*以下、上巻の学習は一部を除き基本的に異領域異教材で学習を行うが、2年生が1年生にアドバイスしたり、両学年の学習の交流を図ったりする活動を、児童の実態に応じて可能な範囲で行うようにする。 〔1年〕 ひとつつながることば／こえをとどけよう／えんぴつをつかうときにたしかめよう／かいてみよう／あいうえおのうた／あいうえおのことばをあつめよう 生活科の学校探検で出会った人や見付けたものとの関わりを、言葉の学習へつなげていく。人と関わるときに大切な言葉や場面に応じた声の大きさ、見付けたものを平仮名で書いて伝え合うときの読み方や書き方など、言葉の学習の土台作りに無理なくつなぐように配慮したい。鉛筆の持ち方や姿勢に気を付けて書いたり、音読したりする際には、2年生にアドバイスをしてもらおう場を設定するなど、両学年の学習の交流も図るようにする。 〔2年〕 いくつあつめられるかな 経験したことの中から友達に伝えたい出来事をメモに書き出して集め、伝えたいことを明確にすることができることをねらいとして学習を行う。友達に伝えたい出来事をメモに書き出して見せ合い、気付いたことを伝え合うだけでなく、メモに書き出すことのよさにも気付かせるようにしたい。 〔2年〕 お話を音読しよう 風のゆうびんやさん 物語の内容の大体を捉え、人物の声を具体的に想像して物語を音読することをねらいとする。まず、題名からどんな物語か想像して学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。本文を読み、人物の行動や場面の様子を捉え、捉えたことを基に人物の声を思い浮かべて音読するようにする。どんなことに気を付けて音読したかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめるようにしたい。学んだことを生かし、1年生に音読を聞いてもらう場を設定する。
	こえをとどけよう 話聞	1				
	えんぴつをつかうときにたしかめよう 言葉	1				
	かいてみよう 言葉	1				
	あいうえおのうた 言葉	2				
	あいうえおのことばをあつめよう 言葉	3				
	ほんがたくさん 読書	1	としょかんへ行こう 読書	2	III	*1年は、「ほんがたくさん」と併せて「としょかんはどんなところ」(教科書1上p.104-105)もここで学習し、合わせて2時間扱いとする。 〔1年〕 ほんがたくさん／としょかんはどんなところ 〔2年〕 としょかんへ行こう 学校図書館を利用して読書に親しむこと、図書館の利用の仕方や置かれている本について理解することをねらいに、1・2年いっしょに学習を行う。1年は、まず絵本の読み聞かせを通して本を読むことへの関心を高める。その後、2年といっしょに学校図書館での過ごし方について考え、実際に図書館で過ごしてみる。2年生は、1年のときの経験を基に、図書館の利用の仕方を話し合い、図書館のどこにどのような本が置かれているか確かめる。
	としょかんはどんなところ 読書	1				
5	あめですよ 読	4	かん字の書き方 言葉 ○たんぼぼのひみつを見つけよう 読 たんぼぼ たんぼぼ ぶんをつくろう 書 みんなにはなそう 話聞 さとうとしお 読 はをつかおう 書 をへをつかおう 書 きいてつたえよう 話聞	3 10 2 4 4 1 2 3	IV	*1年は、教科書の学習順を一部変更して行う。 〔1年〕 あめですよ 絵と言葉結び付けて、場面や人物の様子を思い浮かべ、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けながら音読することをねらいとして学習を行う。雨に関する体験を想起し、全文の音読を聞いて、単元の学習課題をつかむ。絵の人物のや擬声語を基に様子を想像して、気付いたことや思ったことを伝え合う。学習したことを基に、場面の様子を想像しながら音読をして、単元の学習を振り返る。音読する際には、2年生にも聞いてもらい、学習したことを交流する。 〔1年〕 `や° のつくじ 清音、濁音、半濁音の表記と音の違いを理解して、読んだり書いたりすることができることをねらいとしている。単元の学習課題をつかんだ後、清音の語と濁音・半濁音を含む語を比べて読んだり書いたりしながら、濁点や半濁点が付くことで発音や意味が異なることを理解する。次に、身の回りにある濁音・半濁音を含む語を読んだり書いたりする。単元の学習を振り返った後、身の回りの濁音・半濁音を含む語を掲示して、2年生にも見てもらう。 〔1年〕 ぶんをつくろう 主語と述語との関係を考えて、「○○が・・・する。」の文型で、意味が明確な文を作ることができることをねらいとして学習する。助詞「が」の働きを知り、写真を基に、主語と述語で構成される文を作る。 〔1年〕 みんなにはなそう 身の回りで見付けたものの中から紹介するものを決め、相手に聞かえるように、声の大きさを工夫して話すことができることをねらいとしている。学校内で見付けたものを出し合い、クイズにして発表するものを決める。クイズのやりとりをする話型を確かめ、話したり聞いたりする。その際、2年生にも参加してもらう。 〔1年〕 さとうとしお 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、自分の体験と結び付けて感想をもつことをねらいとして学習を行う。問いごとに砂糖と塩を比べながら、書かれていることを読み取る。自分の体験と結び付けて感想を伝え合い、単元の学習を振り返る。 〔1年〕 はをつかおう／をへをつかおう 助詞「は」「を」「へ」の使い方を理解し、意味が明確になるように文を書くことがねらいである。まず助詞「は」の使い方を知り、正しく読み書きする練習をする。次に助詞「を」「へ」の使い方を知り、正しく読み書きする練習をする。正しく読み書きできているか2年生に確かめてもらう場を設定し、学習を振り返る。 〔1年〕 きいてつたえよう だいじなことを落とさないように集中して聞き、グループの人に正しく伝えることをねらいとする。学習課題を確かめた後、活動の進め方を知り、聞き方や伝え方について考える。話の聞き方や声の大きさに注意して、ゲームを楽しみ、学習を振り返る。 〔2年〕 かん字の書き方 漢字の筆順と画数について理解することがねらいである。既習の漢字を使って筆順と画数を確かめ、漢字を正しく書く練習をする。 〔2年〕 たんぼぼのひみつを見つけよう たんぼぼ 順序を考えながら文章の内容の大体を捉え、文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合うことをねらいとする。まず、たんぼぼについて知っていることを出し合い、学習課題を明確にして学習の見通しを持つ。教材文を読みたんぼぼの秘密を見付ける。見付けた秘密の中から三つを選び、順序よく文章にまとめて伝え合う。説明の順序をどのように確かめたかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。最後に、1年生に伝える場を設定し、学習の交流を図る。 〔2年〕 こんなことをしているよ 経験したことを分かりやすく伝えるために、簡単な構成を考えて、経験したことを伝える文章を書くことをねらいとする。学習課題を明確にし、学習の見通しを持った後、家でしていることを振り返りながら、文章に書く事柄を考える。教科書の例文を読んだり、友達と話し合ったりしながら、組み立てを考えて文章を書く。最後に、友達と互いの文章のよいところを伝え合うなどして単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。 〔2年〕 外国の小学校について聞こう 自分が聞きたいことを落とさないように集中して話を聞き、聞いたことと自分が知っていることとの共通点や相違点に着目して、感想を持つことができることをねらいとする。イタリアの小学校についての話を聞き、自分が通う小学校との共通点や相違点に着目して感想を持ち伝え合う。さらに、聞きたいことを決めてカンボジアの小学校についての話を聞き、自分が通う小学校との共通点や相違点に着目して感想を持ち伝え合う。話を聞くときに気を付けたことや気付いたことを確かめ、学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。
	かん字の書き方 言葉	3				
	たんぼぼのひみつを見つけよう 読	10				
	たんぼぼ 書	2				
	ぶんをつくろう 書	2				
	みんなにはなそう 話聞	4				
	さとうとしお 読	4				
	はをつかおう 書	1				
をへをつかおう 書	2					
きいてつたえよう 話聞	3					
	外国の小学校について聞こう 話聞	4				

6	とんこととん 読	6 (+1)	○声やうごきであらわそう 読 名前を見てちょうだい	12	II	<p>*1年は、教科書の学習順を一部変更して行うとともに、「とんこととん」に1時間を増配し6時間扱いとする。</p> <p>〔1年〕 とんこととん 場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉えることをねらいとして学習を行う。ねずみともぐらの行動を中心に、場面の様子や人物の会話を想像しながら読む。その後、お話の場面を想像しながら、音読を楽しむ。音読は2年生に聞いてもらう場も設定し、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 ちいさいっ 促音の表記と音節の対応を理解して読んだり書いたりすることをねらいとする。促音を含む語と含まない語を比べながら、促音の発音や役割を理解する。さらに、身近な促音を含む語を、視覚化や動作化しながら読んだり書いたりする。単元の学習を振り返った後、促音を含む語を掲示して2年生にも見てもらう。</p> <p>〔1年〕 ことばあそび 言葉遊びに親しみながら、平仮名を読んだり書いたりすることをねらいとしている。教科書の「しりとり」や「ことばみつけ」をしながら、その決まりを理解するとともに、平仮名の読み書きに習熟できるようにする。また、身の回りの言葉を使って「しりとり」や「ことばみつけ」をして、語彙を増やす。</p> <p>〔2年〕 声やうごきであらわそう 名前を見てちょうだい 物語の内容の大体を捉え、人物の行動を具体的に想像して、物語を音読や動作で表すことをねらいとする。題名や挿絵から想像を広げ、学習課題を明確にして、学習の見通しを持つ。教材文を読み、場面ごとに人物の様子を確かめる。確かめたことを基に、人物の様子を音読や動作で表現する。その際、1年生にも聞いてもらい、感想を発表してもらう。最後に、どんなことに気を付けて音読や動作で表現したかを確かめ、単元の学習を振り返る。</p>
	あひるのあくび 言葉	4	かんさつしたことを書こう 書	6	IV	<p>*1年は、教科書の学習順を一部変更して行う。</p> <p>〔1年〕 あひるのあくび 五十音図の特徴を理解し、平仮名を正しく読み、姿勢や口形、発声や発音に注意して声に出すことをねらいとする。「あひるのあくび」の詩の仕組みを理解し、五十音を音読したり視写したりしてその特徴に気付くようにする。「あひるのあくび」をまねて詩を作り、友達と読み合ったり、2年生に紹介したりする。</p> <p>〔1年〕 のぼすおん 長音の表記と音節の対応を理解して、読んだり書いたりすることをねらいとする。長音を含まない語と含む語を比べながら、発音や表記の決まりを理解する。さらに、身の回りにある長音を含む語を探して、読んだり書いたりする。単元の学習を振り返った後、長音を含む語を掲示して、2年生にも見てもらう。</p> <p>〔1年〕 どうやってみをまもるのかな 読 事柄の順序を考えながら読み、文章の中の重要な語や文を選び出すことをねらいとする。単元の学習課題をつかんだ後、説明されている内容への感想を伝え合う。次に、「どんなからだをしているか」「どうやってみをまもるのか」「てきがきたらどうするのか」について、三つの事例を比較しながら読む。そして、説明の順序（段落構成・文構成）を確かめる。動物の身の守り方について感想を伝え合い、単元を振り返る。感想は、2年生にも聞いてもらう場を設定する。</p> <p>〔1年〕 ちいさいやゆよ 拗音、拗長音及び拗促音の表記と音節の対応を理解して、読み書きすることがねらいである。拗音を含まない語と含む語を比べながら、発音や表記の決まりを理解する。教科書の絵を見てそれぞれの語を声に出して音を確かめ、視覚化したり動作化したりしながら、拗音・拗長音・拗促音の音節と文字の対応を理解する。さらに、身の回りの拗音を含む語を探して読んだり書いたりする。単元の学習を振り返った後、長音を含む語を掲示して、2年生にも見てもらう。</p> <p>〔1年〕 こんなことしたよ 書 伝えたい内容が明確になるように、語と語や文と文の続き方に気を付けて、文章を書くことをねらいとする。学校での出来事を思い浮かべて、様子が伝わるように文章を書く。文章を書く際に困ったら、2年生からアドバイスをもらうようにする。書いた文章を読み合い、感想を伝え合い、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 かぞえうた 物の数え方に関わる語彙を豊かにするとともに、漢数字を読んだり書いたりすることができることをねらいとする。学習課題をつかんだ後、漢数字「一」～「十」の読み書きをする。さらに、自分の数え歌を完成させて読み合ったり聞き合ったりする。その際、2年生にも紹介する。</p> <p>〔2年〕 かんさつしたことを書こう 身の回りの植物の様子を観察して気付いたことをメモに集め、気付いたことを記録する文章を書くことをねらいとする。生活科の学習と関連させ、学習課題を明確にして学習の見通しを持った後、様子を伝えるためにはどんなことに着目して観察すればよいかを考え、観察して気付いたことをメモに書き、メモを基に「かんさつカード」を書く。最後に、どのようなことに気を付けて観察し、メモやカードを書いたかを確かめ、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔2年〕 かたかなで書くことば 片仮名で書く言葉について理解し、文や文章の中で正しく使うことができることをねらいとして学習を行う。まず、片仮名で書く言葉について学習することを確かめ、片仮名の言葉を集める。片仮名で書く言葉の種類を理解し、片仮名を正しく書く練習をする。さらに、集めた言葉を使って短文を作る。学習を振り返り、片仮名で書く言葉を確認する。</p> <p>〔2年〕 ことばで絵をつたえよう 相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、絵の描き方を説明することをねらいとする。1年生に学習や遊びの説明をするときに生かすという目的意識から、話す事柄の順序を考えて絵の描き方を説明するという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教科書の「石川さんのせつめい」を聞いて、言葉で絵を説明するときに気を付けることについて考える。説明する絵を決めたら、説明の仕方を考える。次に、描き方を説明したり、説明を聞いて絵を描いたりする。互いの説明を聞いた後、分かりやすかった点や違った点を伝え合う。最後に、相手に分かりやすく説明するときに気を付けたことを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめて、実際の説明の場で生かせるようにする。</p> <p>〔2年〕 文しょうのちがいを考えよう サツマイモのそだて方 二つの文章に書かれている事柄や説明の中で重要な語や文などを考え、二つの文章を読み比べて分かったことや考えたことを伝え合うことがねらいである。二つの文章を読み比べて、文章の違いを考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。サツマイモの育て方について書かれた二つの文章を読み、説明されている事柄や順序、説明の仕方などの共通点や相違点を見付け、説明の仕方の違いを考える。最後に、二つの文章の説明の仕方の違いを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。なお、生活科の野菜を育てる活動と関連させ、学習時期を調整して取り組むことも考えられる。</p>
	のぼすおん 言葉	3	かたかなで書くことば 言葉	3		
	どうやってみをまもるのかな 読	6	ことばで絵をつたえよう 話聞	5		
	ちいさいやゆよ 言葉	3	○文しょうのちがいを考えよう 読 サツマイモのそだて方	12		
7	こんなことしたよ 書	4				
	かぞえうた 言葉	5				
6	おおきなかぶ 読	6	言いつたえられているお話を知ろう 伝統	6	IV	<p>*1年は、教科書の学習順を一部変更して行う。</p> <p>〔1年〕 おおきなかぶ 場面の様子の違いに着目して読み、人物の行動を具体的に想像することをねらいとする。単元の学習課題をつかみ、お話の大体を捉えた後、お話の順序を確かめ、場面の様子や人物の行動を想像する。想像したことを基に音読の練習を行い、2年生に音読発表を行う。2年生からの感想やアドバイスを聞き、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 えにつきをかこう 経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を考えて文章を書くことをねらいとする。夏休みの思い出をみんなに知らせるために「えにつき」の書き方を学習するという課題をつかむ。まず、「えにつき」の書き方を学習し、「えにつき」を書く。書いた「えにつき」を友達と読み合ったり、2年生にアドバイスをもらったりして、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔2年〕 言いつたえられているお話を知ろう 神話や伝承の読み聞かせを聞き、内容や感想などを伝え合ったり演じたりして、感じたことや分かったことを共有することをねらいとする。単元の学習課題を明確にし、学習の見通しを持った後、「だいだらぼうのお話」、「やまたのおろちのお話」や「いなばの白うさぎのお話」の読み聞かせを聞き、伝承や神話への関心を高める。地域の民話や、神話・伝承についても調べて読んでみる。さらに、神話や伝承などの本から好きなところを見付けて声に出して読み、感じたことや分かったことを伝え合う。その際、1年生にも聞いてもらい、学習の交流を図る。</p> <p>〔2年〕 本は友だち 読書に興味を持ち、楽しんで本を選んだり読んだりすることをねらいとする。読みたい本を探して読むという単元の学習課題を確かめ、読書体験文の読み聞かせを聞く。教科書に紹介されている本などを手がかりにして、読みたい本を探して読む。1年生とともに、夏休みの読書へつなげる。</p>
	えにつきをかこう 書	4	本は友だち 読書	4		

9	あるけあるけ／おおきなあれ 読	3	しを読もう 読 いろんなおとのあめ／ 空にぐうんと手をのばせ	3	Ⅱ	〔1年〕 あるけあるけ／おおきなあれ 〔2年〕 しを読もう いろんなおとのあめ／空にぐうんと手をのばせ 両学年とも、語のまとまりや言葉の響き、リズムなどに気を付けて楽しみながら音読することをねらいとして学習する。最後には、好きな詩を選び、音読を発表して感想を伝え合う場を設定する。
	はなしたいなききたいな 話聞	5	うれしくなることばをあつめよう 話聞	8	Ⅱ	*1・2年ともに、教科書の学習順を一部変更して行う。 〔1年〕 はなしたいなききたいな 夏休みに経験したことの中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んで話したり、話を集中して聞いて内容を捉えて感想を持ったりすることができることをねらいとして学習する。みんなに話したい思い出を選んで、教科書の例を参考に話の組み立てを考える。声の大きさや話す速さなど、分かりやすく話す工夫についても考えるようにする。発表は、2年生にも聞いてもらい、内容や話し方についての感想から単元の学習を振り返るようにする。 〔1年〕 ことばあそびうたをつくろう 身の回りのものから書くものを見付け、それに関わる音や様子を表す言葉を集めたり確かめたりして、擬声語や擬態語を使った詩を作ることができるようにすることをねらいとする。身の回りのいろいろなものの音や様子を思い浮かべて、擬声語や擬態語で表してみた後、自分たちの「ことばあそびうた」を作って、発表会を開く。発表会には2年生も参加してもらう。 〔2年〕 うれしくなることばをあつめよう 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぎながら、尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合うことができることをねらいとして学習する。周りの人に言葉をかけられてうれしくなった経験を振り返り、学習課題を明確にして学習の見通しを持つ。学級全体でうれしかった言葉を思い出して話し合い、どのようにして話をつなぐとよいかを考える。考えたことに気を付けながらグループで話し合い、うれしくなることばを集める。最後に、話し合うときに気を付けることを確かめるとともに、集めた言葉を掲示して1年生にも伝える。 〔2年〕 はなしたいのいみのことば 対義語に関心を持ち、言葉を集めたり分類したりすることができることをねらいとしている。まず、反対の意味を表す言葉について確かめ、知っている言葉を挙げる。次に、教科書の練習題を行ったり、身の回りから反対の意味を表す言葉を集めて短文を作ったりする。
	ことばあそびうたをつくろう 書	6	はなたいのいみのことば 言葉	2		
	かいがら 読	6	〇気持ち音読であらわそう 読 ニャーゴ	12	Ⅳ	〔1年〕 かいがら 場面の様子に着目して、人物の行動を具体的に想像することができることをねらいとして学習する。1日目の出来事を読み取り感想を伝え合った後、1日目の「くまのこ」の行動のわけ・意味について考える。2日目の出来事を読み取り感想を伝え合った後、最後の場面での人物の気持ちを想像する。最後に好きなお話を読んで、好きなところを紹介する場を設定し、2年生にも聞いてもらう。 〔1年〕 かんじのはなし 漢字の成り立ちや意味を考えながら、第1学年に配当されている漢字を読んだり書いたりすることをねらいとして学習する。初めに、象形文字「山」「木」「川」「口」「目」の成り立ちを理解し、正しく書く。次に、指事文字「上」「下」の成り立ちを理解し、正しく書く。さらに、習った漢字を使って文を書く。 〔2年〕 気持ちを音読であらわそう ニャーゴ（12時間扱い） 人物の行動や気持ちを具体的に想像し、想像したことを音読で表すことができることをねらいとして学習を行う。題名や挿絵から物語について想像を広げるとともに、「1年生に紙芝居（読み聞かせ）をしよう」などのような、音読の目的意識や相手意識を持たせるような学習課題を設定する。「ニャーゴ」を読み、物語の中で起こった出来事を場面ごとに確かめる。そして、場面ごとに人物の気持ちを想像し、想像したことを音読で表すようにする。互いに聞き合い、人物のどんな気持ちをどのような声で表したか確かめ、単元の学習を振り返る。最後に、1年生に紙芝居（読み聞かせ）をする。
	かんじのはなし 言葉	5				
10	〇おはなしをよもう 読 サラダでげんき	10	絵を見てお話を書こう 書	10	Ⅳ	*2年は、教科書の学習順を変更して行う。 〔1年〕 おはなしをよもう サラダでげんき 場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉え、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想を持つことができることをねらいとして学習を行う。単元の学習の見通しを持った後、物語の中で起こった出来事をつかむ。りっちゃんに教えたいことを考え、りっちゃんに手紙を書く。書いた手紙を読み合い、感じたことを伝え合う。その際、2年生にも聞いてもらい、感想を聞く。最後に、単元の学習を振り返る。 〔1年〕 かたかなをかこう 片仮名の表記を理解し、正しく読み書きすることができることをねらいとする。片仮名の書き方を知るとい学習課題をつかんだ後、片仮名の書き方を知り、書く練習をする。正しく書けているか2年生に見てもら場を設定する。そして、身近なものの中から片仮名で書かれた言葉を集めて文を作る。困ったときには、2年生からアドバイスをもらう。最後に、単元の学習を振り返る。 〔1年〕 ほんはともだち いろいろな本を読み、読書に親しむことができることをねらいとする。読みたい本を探して読むという単元の学習の見通しを持ち、読書体験文の読み聞かせを聞く。教科書で紹介されている本や2年生が紹介してくれた本などを手がかりにして、読みたい本を探して読む。 〔2年〕 絵を見てお話を書こう 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して、簡単な物語を書くことをねらいとして学習を行う。絵から想像を広げてつながりを考えて物語を書くという単元の学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。まず、教科書p.143の①②④の絵を見るとともに、p.144-145の物語を読み、登場人物像や場面ごとの様子について分かったことや想像できることを話し合う。①②④の情報を基に、③の場面ではどんな出来事が起こったのか考えて物語を書く。書いた物語の発表会を開き、楽しいと思ったところや面白いと思ったところを伝え合う。発表会には、1年生にも参加してもらい、感想を聞く。最後に、どのようなことに気を付けてつながりのある物語を書いたか確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。 〔2年〕 にたいみのことば 同義語や類義語について理解することをねらいとして学習を行う。まず、同義語や類義語について確かめるという学習課題をつかむ。教科書を読み、似た意味の言葉を集める。次に、教科書の練習題に取り組み、似ているところと違うところについて考える。最後に学習を振り返り、言葉を選んで文を作る。 〔2年〕 主語とじゅつ語 主語と述語の働きを理解し、適切な係り受けの関係に気付くことをねらいとする。主語と述語がどのようなものであるかを押さえ、学習課題を明確にする。短い文を作り、主語と述語の関係を確かめる。さらに、さまざまな文を使って、主語と述語の関係を確かめる。最後に、主語と述語の関係について、これからの学習に生かしていく点を押さえ、学習を振り返る。
	かたかなをかこう 言葉	3	にたいみのことば 言葉	3		
	ほんはともだち 読書	2	主語とじゅつ語 言葉	3		

<p>なにに見えるかな 話聞</p> <p>よう日と日づけ 言葉</p> <p>はっけんしたよ 書</p>	<p>6</p> <p>3</p> <p>8</p>	<p>あそび方をせつ明しよう 書</p> <p>おくりがなに気をつけよう 言葉</p> <p>「ありがとう」をつたえよう 書</p>	<p>7</p> <p>3</p> <p>5</p>	<p>IV</p>	<p>* 2年は、教科書の学習順を一部変更して行う。</p> <p>〔1年〕 なにに見えるかな 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて楽しく話をつなぐことができることをねらいとして学習を行う。単元の見通しを持った後、写真を見ながら、想像を広げて話し合う。次に、楽しく話をつなぐために大切なことをつかんだ後、写真を見て考えたことについてグループで話し合う。可能であれば、2年生にも聞いてもらってアドバイスをもらい、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 よう日と日づけ 曜日と日付を表す語句の量を増し、漢字を使って正しく読み書きすることができることをねらいとする。曜日と日付を表す言葉や漢字を使った書き方を知るという学習課題をつかむ。曜日と日付を表す言葉を理解し、漢字を使って正しく読み書きする。日付と曜日を表す言葉を使って、予定を伝える文を書いて、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 はっけんしたよ 観察した動植物の様子を伝えるために必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にして書くことをねらいとして学習する。生活科の時間に見付けた身近な動植物を観察して気付いたことを記録するという学習課題をつかみ、単元の学習の見通しをもつ。まず初めに、気付いたことを記録するための「はっけんメモ」を書く。その「はっけんメモ」を基に、観察した動植物の様子を伝える文章を書く。友達や2年生に読んでもらい、感想を聞いて単元の学習を振り返る。</p> <p>〔2年〕 あそび方をせつ明しよう 説明する文章を書き、読み返したり友達と読み合ったりして、間違いを正したり語と語や文と文との続き方を確かめることをねらいとして学習を行う。生活科のおもちゃを作って遊ぶ活動と関連付け、手作りおもちゃの遊び方を説明する文章を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。まず、手作りおもちゃの遊び方を伝えるには、どんなことを、どのような順序で説明すればよいかを考える。次に、手作りおもちゃの遊び方を説明する文章を書く。書いた文章を読み返し、分かりやすく書けているか確かめる。友達と文章を読み合ったり、1年生に読んでもらったりして、分かりやすく書けているか確かめる。最後に、分かりやすい文章を書くために気を付けたことを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>〔2年〕 おくりがなに気をつけよう 送り仮名の役割を理解し、漢字を正しく書いたり読んだりすることができるようにすることがねらいである。まず、送り仮名の意味と役割を確かめ、学習課題を明確にする。教科書の例文の漢字の送り仮名を確かめる。次に、既習の漢字から、送り仮名が複数あるものを確かめ、短文を作る。学習を振り返り、これからの学習に生かしていける点を押さえる。</p> <p>〔2年〕 「ありがとう」をつたえよう 感謝の気持ちを相手に伝えるために必要なことを考え、言葉の使い方や間違いに気を付けて手紙を書くことをねらいとして学習する。「ありがとう」の気持ちを伝えたい人に手紙を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。「ありがとう」の気持ちが伝わるように手紙を書き、読み返す。さらに、書いた手紙を声に出して読み返し、相手の名前と自分の名前、感謝していることが具体的に書けているか、文末表現や文字の間違い、言葉の使い方の誤りがないかを確かめる。最後に、気持ちを伝えるためにどのようなことを手紙に書いたかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p>
<p>○のりもののことをしらべよう いろいろなふね</p> <p>まとめてよぶことば 言葉</p>	<p>13</p> <p>3</p>	<p>○どうぶつのひみつをさぐる ビーバーの大工事</p>	<p>15</p> <p>3</p>	<p>II</p>	<p>* 2年は、教科書の学習順を一部変更して行う。</p> <p>〔1年〕 のりもののことをしらべよう いろいろなふね 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができることをねらいとして学習を行う。乗り物のことを調べてカードに書くという学習課題を確かめて、単元の学習の見通しを持つ。教材文を読み、読み取ったことをカードに書く。学んだことを生かして、他の乗り物のことを調べてカードに書く。調べたことをまとめたカードを紹介し合う。カードに書く際には、2年生からアドバイスをもらう。説明の文章を読むときのポイントについて確かめ、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 まとめてよぶことば 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、上位語と下位語を理解して、語彙を豊かにすることをねらいとする。同じ仲間の言葉をまとめて呼ぶ言葉について知るという学習課題をつかむ。次に、仲間になる言葉やまとめて呼ぶ言葉を集めたり分類したりする。そして、まとめて呼ぶ言葉と仲間になる言葉を使った短文を作ってその関係を捉えた後、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔2年〕 どうぶつのひみつをさぐる ビーバーの大工事 動物について書かれた本や文章などを読み、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、分かったことなどを紹介することができることをねらいとして学習を行う。動物について書かれた本や文章などを読み、分かったことを紹介するという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。書かれている内容や説明の順序に気を付けて教材文を読む。次に、ビーバーや他の動物について調べることを考える。その後、動物に関する本を読んで知りたいことを調べ、調べたことをまとめて紹介する。その際、1年生にも参加してもらい、感想を聞く。最後に、知りたいことをどうやって本で調べたかを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p>
<p>すきなきょうかはなあに 話聞</p>	<p>5</p>	<p>たからものをしょうかいしよう 話聞</p>	<p>7</p>	<p>II</p>	<p>〔1年〕 すきなきょうかはなあに 相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、声の大きさや速さなどを工夫して話すことをねらいとして学習する。単元の学習の見通しをもった後、好きな教科について考える。話す練習をした後、1年生と2年生の前で話す。順序よく話すためのポイントを確かめ、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔2年〕 たからものをしょうかいしよう 話す事柄の順序を考えて、紹介したいことが聞き手に伝わるように話すことをねらいとして学習する。初めに、自分の宝物について振り返るとともに、学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、話の組み立てに気を付けて、みんなの前で話すことを考える。二人組で話す練習をして、よかった点や分かりやすかった点を伝え合い、再度練習をする。練習したことを基に、声の大きさや話す速さに気を付けて、1年生と2年生の前で話す。どんなことに気を付けて話したかを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p>
<p>ことばであそぼう 言葉</p>	<p>3</p>	<p>なかまになることば 言葉</p>	<p>3</p>	<p>I</p>	<p>〔1年〕 ことばであそぼう 言葉遊びを通して言葉の豊かさに気付くことをねらいとする。学習の見通しを持った後、「さかさによんでも」（回文）で遊ぶ。次に、「だじゃれ」で遊ぶ。次に、「わたしはだあれ」で遊ぶ。最後に、言葉遊びの面白さについて振り返る。</p> <p>〔2年〕 なかまになることば 仲間になる言葉に関心を持ち、言葉を集めたり分類したりすることができることをねらいとする。仲間になる言葉とはどのようなものかを押さえ、学習課題を明確にする。教科や色、形など、身の回りの言葉から仲間になる言葉を集めて分類する。仲間になる言葉を使って文を作り、学習を振り返る。</p>
<p>おもい出してかこう 書</p>	<p>9</p>	<p>同じところ、ちがうところ 書</p>	<p>5</p>	<p>II</p>	<p>〔1年〕 おもい出してかこう 経験した順序に沿って簡単な構成を考え、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し工夫することをねらいとして学習する。単元の学習課題を確かめ、学習の見通しを持つ。初めに、分かりやすく伝えるために、何をどのように書けばよいかを考える。文章を書いたら、友達や2年生に読んでもらい、感想やアドバイスをもらう。最後に事柄の順序に沿って簡単な構成で書けたか、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔2年〕 同じところ、ちがうところ 二つの物を比べて同じところと違うところを見付け、それらが明確に分かるように文章に書き表すことをねらいとして学習する。単元の学習課題を確かめて学習の見通しを持った後、初めに、比べる物と比べる観点を決めて、二つの物を比べる。次に、比べて分かったことを整理して文章を書く。最後に、観点を決めて比べたり、気付いたことを整理して書いたりすることの良さを伝え合いながら単元の学習を振り返って、身に付けた「言葉の力」を確かめる。書いた文章は、1年生にも紹介する。</p>

12	○こえに出してよもう 読 おとうとねずみチロ	12	○読んだかんそうをつたえ合おう 読 お手紙	12	II	<p>* 2年は、教科書の学習順を一部変更して行う。</p> <p>〔1年〕 こえに出してよもう おとうとねずみチロ 場面の様子に着目して、人物の行動を具体的に想像し、自分の体験と結び付けて感想を持つことをねらいとして学習を行う。単元の学習の見通しを持った後、人物の行動や、物語の中で起こった出来事を確かめる。チロの気持ちを考え、それが伝わるように物語を音読する。音読は、2年生に聞いてもらう。2年生とともに感想を伝え合う活動を行い、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 すきなおはなしはなにか 読書に親しみ、好きな物語を読んで感じたことを共有することをねらいとして学習する。前単元で物語の感想を伝え合った活動を振り返り、単元の見通しを持つ。学級みんな（1・2年生）に伝えたい好きなお話や人物を決めた後、「しょうかいカード」を書く。カードを使って、好きな物語や好きな人物について紹介し合う。単元の学習を振り返り、冬休みの読書につなげるようにする。</p> <p>〔2年〕 読んだかんそうをつたえ合おう お手紙 人物の気持ちについて想像を広げ、物語を読んだ感想を深めることをねらいとして学習を行う。物語を読んで感想を伝え合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教材文を読み、物語の中で起こった出来事を確かめるとともに、登場人物の気持ちを自分の気持ちと比べて想像する。想像したことを基に、物語を読んだ感想を伝え合う。感想を伝え合う活動は、1年生といっしょに行う。最後に、自らの感想の変化を確かめるとともに、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>〔2年〕 どんな本を読んだかな これまでに読んだ本について友達と伝え合い、おもしろかったところを友達と共有することをねらいとして学習する。これまでに読んだ本を振り返り、おもしろかったところを伝え合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。読んだ本を思い出し、学級みんな（1・2年生）に伝える本を1冊決める。教科書の例を参考に、読書カードを書く。読書カードを基に、読んだ本について伝え合う。互いに伝え合った本を共有し、今後の読書につなげる。最後に、友達が読んだ本の中でどんな本を読みたくなったかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p>
	すきなおはなしはなにか 読	7	どんな本を読んだかな 読	6		
1	○しをよもう 読 みみずのたいそう	2	○むかし話をしょうかいしよう 読 かさこじぞう	14	IV	<p>* 1年は、教科書の学習順を一部変更して行う。</p> <p>〔1年〕 しをよもう みみずのたいそう 詩の内容の大体を捉えて、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することをねらいとして学習する。単元の学習の見通しを持った後、様子を想像して読み、好きなところや読んだ感想を発表し合う。その後、全員で読んだり友達と交代して読んだりするなど読み方を工夫して、詩を楽しむ。音読は、2年生にも聞いてもらい、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 むかしばなしをたのしもう 読み聞かせを聞くなどして、昔話に親しみ、おもしろいと思ったところを共有することをねらいとする。単元の学習課題をつかんだ後、付録教材「花さかじいさん」などの読み聞かせを聞いて、昔話の独特な語り口調や展開などを楽しむ。その後、興味を持った昔話の本を探して、読み聞かせを聞いた自分でも読んだりする。そして、読んだ昔話の中からおもしろかったものを選んで、好きなところを発表する。その発表は、2年生にも聞いてもらう。最後に、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 おはなしをかこう 想像したことから書くことを見付け、登場する人物について考え、その人物がどんなことをするのかを明確にして、簡単なお話を書くことをねらいとして学習を行う。単元の学習の見通しを持った後、知っている昔話を出し合い、基にするお話を決める。次に、人物メモを書く。そして、選んだお話を基にしてお話を書く。友達と読み合った後、2年にも読んでもらい、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔1年〕 かたかなのかたち 平仮名の字形との違いに気を付けながら、片仮名の言葉を書き、文の中で使うことができることをねらいとしている。学習課題をつかみ、学習の見通しを持つ。次に、平仮名と似ている片仮名を探して書く。探した似ている片仮名を使って、文を作る。最後に、どのようなことに注意すればよいかを振り返り、字形に気を付けて書くことを今後に生かす。</p> <p>〔1年〕 かたちのにているかん字 字形の似た感じを区別し、正しく読み書きすることができることをねらいとしている。まず、形の似た漢字を正しく使い分けるとい学習課題をつかむ。次に、形の似た漢字を使った教科書の例文を、注意して読んだり書いたりする。そして、既習の漢字の中から形の似ているものを探して、短文を作る。最後に、学習を振り返って、字形に注意して読み書きすることを確認する。</p> <p>〔2年〕 むかし話をしょうかいしよう かさこじぞう 昔話を読み、おもしろいと思ったところを友達と伝え合い、共有することをねらいとする。昔話を読んで感想を伝え合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教材文を読み、物語の中で起こった出来事を確かめる。次に、「かさこじぞう」の始まりの部分と終わりの部分で変化したことについて考える。さらに、さまざまな昔話を読み、おもしろいところを見付けて紹介する。その発表は、1年生にも聞いてもらう。最後に、単元の学習を通じて分かったことや気付いたことを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>〔2年〕 声に出してみよう 音節(拍)と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いを理解し、日本語の母音と子音の構成について気付くことができることをねらいとしている。音と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いについて考えるという学習課題を明確にする。そして、手をたたきながらいくつかの言葉を声に出して言い、音節を確かめる。教科書の例を声に出して読み、音の高さの違いやアクセントによる語の意味の違いに気付く。さらに、平仮名表を見ながら、母音と子音の構成を理解する。最後に、単元で学習した三つの内容について振り返る。</p> <p>〔2年〕 おばあちゃんに聞いたよ 長く親しまれるさまざまな言い回しや言葉遊びに触れることを通して、言葉の豊かさや地域の伝統に親しむことをねらいとして学習する。長く親しまれるさまざまな言い回しや言葉遊びについて、学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。まず、「十二支」「小の月」について知り、楽しんで音読する。次に、「いろは歌」「いろはかるた」「郷土かるた」にいて知り、かるた作りを楽しむ。最後に、単元の学習を振り返る。</p>
	むかしばなしをたのしもう 伝統	6				
	おはなしをかこう 書	9				
	かたかなのかたち 言葉	3	声に出してみよう 言葉	3		
	かたちのにているかん字 言葉	3	おばあちゃんに聞いたよ 伝統	6		
2	○くらべてよもう 読 子どもをまもるどうぶつたち	14	○あなのやくわりを考えよう 読 あなのやくわり	14 (+2)	II	<p>* 2年は、教科書の学習順を一部変更して行うとともに、時間をそろえて学習するために、2時間増やして14時間扱いで行う。</p> <p>〔1年〕 くらべてよもう 子どもをまもるどうぶつたち 二つの動物の説明を比べて読み、似ているところや違うところを見付けて共有することをねらいに学習を行う。単元の学習の見通しを持った後、二つの動物について、書かれていることを読み取る。二つの動物を比較し、特徴、子どもの身の守り方の違いについて表にまとめる。表を基に二つの動物を比べて気付いたことを交流し合う。他の動物の知恵や生活について本で調べ、学級みんな（1・2年生）に紹介する。最後に単元の学習を振り返る。</p> <p>〔2年〕 あなのやくわりを考えよう 文章の内容と自分の体験とを結び付けて考え、考えたことを文章にまとめることをねらいとして学習を行う。学習課題を明確にして学習の見通しを持つ。教材文を読み、それぞれの物に穴が開いている理由や説明の仕方確かめる。次に、身の回りにある穴を想起し、その役割を考えたり、本や資料で調べたりする。そして、そのことから考えたことを文章にまとめ、学級みんな（1・2年生）に伝える。最後に、知っていることを結び付けて読んだり書いたりすることができたかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p>

3	ことばをあつめよう 言葉	3	ことばを広げよう 言葉	5 (-1)	I	<p>* 2年は、教科書の学習順を一部変更して行う。</p> <p>〔1年〕 ことばをあつめよう 身近なことを表す語句を集め、語と語との続き方に注意して、文の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることをねらいとして学習する。学習課題をつかみ、学習の見通しを持った後、教科書の言葉をつなげて文を作る。さらに、いろいろな言葉を集めて文を作る。困ったときには、2年生に聞くようにする。最後に、学習を振り返り、いろいろな言葉でつながりを試す。</p> <p>〔2年〕 ことばを広げよう 文や文章の内容や表現に着目し、よりよい表現について考えることをねらいとして学習する。文や文章を読み、よりよい表現について考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。初めに、動きやすことを表す言葉を探して、文を作る。次に、様子や気持ちを表す言葉を集めて、文を作る。さらに、文章を詳しくしたり分かりやすくしたりするために、言葉を考えて書き直す。最後に、単元の学習を振り返るとともに、今後のよりよい言葉の使い方について考える。</p>
	○すきなところを見つけよう 読 スイミー	12	この人をしょうかいします 書	10	IV	<p>* 1・2年ともに、教科書の学習順を一部変更して行う</p> <p>〔1年〕 すきなところを見つけよう スイミー 人物の行動を具体的に想像して、自分の体験と結び付け、お話の好きなところを見付けることをねらいとして学習する。単元の学習の見通しを持った後、スイミーの行動や会話などを手がかりに、場面の様子を想像しながら読む。その後、物語の中で好きなところを見付け、音読する。音読は、2年生にも聞いてもらう。最後に、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔2年〕 この人をしょうかいします 内容のまとまりが分かるように書き表し方工夫して、身の回りにいる人を友達や先生に紹介する文章を書くことをねらいとして学習する。これまでの学習や生活経験を振り返り、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して紹介する文章を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。初めに、身の回りの人を想起し、紹介する人を決める。紹介することをカードに書き出し、整理する。整理したカードを基に、言葉や文の続き方や伝えたいことのまとまりに気を付け、紹介する文章を書く。書いた文章を読み合い、気づいたことや感想を伝え合う。文章は、1年生にも読んであげて、感想を聞く。最後に、文章を書く際に気を付けたことを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p>
	小学校のことをしょうかいしよう 話聞	7 (+1)	すきな場しょを教えよう 話聞	7 (-1)	II	<p>* 1・2年ともに、教科書の学習順を一部変更して行い、時数をそろえて7時間扱いとする。</p> <p>〔1年〕 小学校のことをしょうかいしよう（7時間扱い） 来年度の新入生に、小学校生活を楽しみにしてもらえるように、経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えて話すことをねらいとして学習する。来年度の新入生に小学校のことを紹介するという学習課題を確かめ、学習の見通しを持つ。まず、どんなことをどんな順序で話すかよいかを考える。そして、紹介することを決めて、話す練習をする。その際、2年生から工夫したらよいことなどについてのアドバイスをもらう。グループで聞き合った後、新入生の前で発表する。最後に、単元の学習を振り返る。</p> <p>〔2年〕 すきな場しょを教えよう（7時間扱い） 伝えたいことに必要な事柄を選び、自分が好きな場所のことを紹介して伝えることをねらいとして学習する。来年度の新入生に校内や地域の中で好きな場所を紹介するという学習課題を確かめ、学習の見通しを持つ。まず、好きな場所について思い浮かべて決める。次に、好きな場所の良いところが伝わるように、話すことを考え、選ぶ。声の大きさや話す速さを考えて、話す練習をする。その際、2年生だけでなく1年生にも聞いてもらい、分かりやすい話し方であるか確かめる。練習して気づいたことを生かして、新入生の前で話す。最後に、話すときに気を付けたことを生かして、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p>
一年かんをふりかえろう 書	7 (-1)	「ことばのアルバム」を作ろう 書	7	III	<p>* 1年間を振り返って文集作りの活動をする。1年は、時間をそろえて学習するために、1時間減らして7時間扱いで行う。</p> <p>〔1年〕 一年かんをふりかえろう 〔2年〕 「ことばのアルバム」を作ろう これまでに書いた文章の内容やよいところを見付け、1年間で最も心に残った出来事を報告する文章を書き直すことをねらいとして学習する。これまでの学習を振り返り、自分の文章の内容や表現のよいところを見付け、1年間で最も心に残った出来事を書き直すという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。まず初めに、1年間で書いた文章を読み返し、経験したことや学習したことを振り返る。その中から、家の人に伝える出来事を決め、その出来事を思い出して文章を書く。自分や友達の文章のよいところを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。書いた文章は学級文集としてまとめ、家の人に読んでもらう。</p>	

3・4年 複式年間指導計画案

*…複式学級の特性に応じて配慮が必要となる場合の留意事項

I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い II…同領域異教材だが、一部一斉に行う扱い III…同領域同教材（1・2年同時に行い、「わたり」を行わない扱い）
IV…異領域異教材など（I、II、IIIのどれにも当てはまらない扱い）

月	単元名・教材名 3年	配当時間	単元名・教材名 4年	配当時間	取り扱い	単元展開の概要・留意点
4	何をしているのかな 話聞	2	もしも、どうしたい 話聞	2	III	国語学習のスタートとして、わたりを行わず、3・4年生がいっしょに学習をする。第1時は、3年教科書「何をしているのかな」の対話例を読み、学習の見通しを立てる。そして、二人一組で絵や写真を見て、想像したことについて対話し、対話をして気付いてことを話し合う。第2時は、4年「もしも、どうしたい」の教科書の対話例を読み、話題を選んで想像したことの共通点や相違点を見付けながら対話を行う。 第3時は、3年の「くらべてみよう」を用い、おやつのおよところを表で整理して、学習の見通しを立てる。そして、表を見ながら話し合いを行い、実際に表を作成して、気づいたことを伝え合う活動を行う。第4時は、4年「グループにまとめて整理しよう」を用い、教科書の整理した例を見て、学習課題を確かめる。そして、1年間でがんばりたいことを書き出して、見出しを付けて整理する。他の話題について思いつくことがあれば書き出して、分類して整理する。 このように、国語教室開きとして、対話すること、いろいろな情報を分類したり、表を使って整理したりする学習活動を行う。
	くらべてみよう 書	2	グループにまとめて整理しよう 書	2		
	○物語を音読しよう 読 すいせんのラッパ ・国語のノートの作り方	8	○想像したことを音読で表そう 読 こわれた千の楽器 ・国語のノートの作り方	8	I	3年は、場面の様子を思い浮かべて物語を音読することをねらいとする。すいせんのラッパの音や、人物の様子を思い浮かべながら音読をし、最後は音読したい場面を決めて、音読をする。4年は、人物の様子や気持ちの変化に注意しながら想像を広げ、想像したことを音読で表すことをねらいとする。教材文を読んで、それぞれの場面の楽器たちの様子や気持ちを想像し、その想像したことを、聞き手に伝わるように音読で表現する。その際に、想像したことを音読で表すために、どのような工夫をしたのかを振り返り、身に付けた「言葉の力」がどんな場面に役立つかを考え、これからの学習に生かそうという意識を高める。授業の最後には、3・4年いっしょに音読発表会を行い、互いに評価する活動を行ってもよい。 図書館の利用については、本が内容によって分類・配架されていることを理解し、実際に図書館のどの本棚にどのような種類の本が置かれているか確かめたり、ある題材に関係する本をさまざまな棚から探したりすることができるようにする。
	図書館へ行こう 読書	2	図書館へ行こう 読書	2	III	
国語じてんの使い方 言葉	3	漢字辞典の使い方 言葉	3 (+1)	II	*4年は、3年と時間をそろえるために1時間増やして3時間扱いで行う。 3年は、国語辞典の仕組みや使い方を理解することができることをねらいとする。国語辞典を使ってさまざまな語を調べるという学習課題を確かめ、国語辞典の仕組みと引き方を理解する。そして、国語辞典の語の配列を知って、実際に辞典を引きながら、使い方に慣れていく。また、活用のある語の見出し語の形を知り、国語辞典を使って、文脈に合った表記や意味を調べ、国語辞典の必要性を確認する。4年は、漢字辞典の仕組みと3種類の索引の使い方を知り、漢字の学習に活用することができることをねらいとする。まず、漢字辞典の仕組みを知って漢字を調べるという学習課題を確かめる。そして、漢字辞典の仕組みを知り、部首索引や総画索引、音訓索引を使って漢字を探す方法を理解し、三つの索引の使い分けについて考えることを学習する。 ここでは、4年生がサポートしながら3年生に国語辞典の使い方を教えるという学習活動を行っていく。	
○文章を読んで感そうをつたえ合おう 読 自然のかくし絵	10	○説明のまとまりを見つけよう 読 ヤドカリとイソギンチャク	10	I	3年は、段落ごとに文章の内容を捉えることをねらいとして学習する。「だん落」という用語を理解し、段落ごとの内容を読み取ってまとめ、段落ごとに読み取ったことを基にして、感想を伝え合う。 4年は、段落相互の関係について理解し、文章の構成を捉えることをねらいとしている。まず、これまでの学習を振り返って、文章のまとまりを捉えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、教材文を読み文章構成を捉える。そして、ヤドカリとイソギンチャクの関係について、説明のまとまりに着目しながら読み取り、図や表で表したり、筆者の説明の仕方について考えたりする学習活動を行う。 3年は、段落ごとに中心文を見付け、それぞれの段落の文章の内容を捉えていく。また、4年はヤドカリやイソギンチャクの動きを動作化しながら、それぞれの関係について読み取りを行い、図を使って関係を表す。	
漢字の表す意味 言葉	2	漢字の表す意味 言葉 (3年学習材)	2 (+2)	III	*3・4年がいっしょに、3年の学習材「漢字の表す意味」について学習する。 ねらいは、複数の意味を持つ漢字があることを知り、その意味の違いについて理解することである。漢字には複数の意味を持つものがあり、その意味や使い方の違いを知るという学習課題を確かめ、一つの漢字が持っている複数の意味の違いを理解する。学習の最後には、3年、4年でそれぞれ習っている漢字についてのクイズを行って、学習の定着を図る。	
メモを取りながら話を聞こう 話聞	5 (+1)	みんなで新聞を作ろう 書	10	IV	*4年の学習順を入れ替えて行う。また、学習時間をそろえるため、3年「メモを取りながら話を聞こう」を1時間増やして5時間扱いで行う。 4年の学習材を入れ替えて、3年「メモを取りながら話を聞こう」と4年「みんなで新聞を作ろう」を同時に行う。 3年は、話し手が伝えたいことの中心を捉えるために、話の組み立て方を意識して、必要なことを記録しながら聞くことをねらいとする。まず、これまでの経験を振り返り、単元の学習の見通しを立てる。そして、実際に教科書P.51のやりとりの音声(Dマークコンテンツ、教師用指導書研究編付属DVD-ROMにも収録)を聞き、話の聞き方やメモの取り方について考える。また、p.52の二つのインタビューメモを比較したりp.62「メモの取り方」を参照したりして、メモを取ることで、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えながら聞く方法について学習する。 4年は、知らせたいことが明確に伝わるように記事を書き、見出しや割り付けを考えて、読み手の興味をひく新聞を作ることをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返って、知らせたいことを新聞で伝えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。そして、新聞作りの計画を立てる。あとは、各自が取材をして記事を書き、割り付けをし、新聞を完成させる。 ここでは、3年に直接指導の時間を多くとり、4年は自分たちで新聞を作るという書く活動を行う。 3年は「メモを取りながら話を聞こう」の学習を終えたら「調べて書こう、わたしのレポート」の学習に移る。ねらいは、身の回りのことの中から書くことを選び、知りたいことに応じた方法で調べ、書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えることである。まず、目的を理解し、学習の見通しを立てる。次に、身の回り不思議に思うことや気になることを集め、調べることを決める。そして、知りたいことに応じた方法で調べ、レポートの組み立てを考える。最後にレポートを書いて、友達と読み合う。 4年「たしかめながら話を聞こう」のねらいは、聞きたいことの中心を考えて聞き、必要なことをよく知るために質問をして、自分の考えを持つことである。まず、これまでに学習したことや話を聞いた経験を振り返って、聞きたいことの中心を考えて質問するという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、教科書P48のやりとりを、メモを取りながら聞く。そして相手の紹介する本について聞きたいことを整理し、自分の紹介する本について話すことを整理する。最後に、質問し合いながらお互いに紹介する本を知り、どんな本を紹介するのか、自分の考えをまとめる。 ここでは、4年に直接指導の時間を多くとり、3年は自分たちでレポートを書く活動を行う。	
調べて書こう、わたしのレポート 書	10	たしかめながら話を聞こう 話聞	5			
6	○「あらすじカード」を作ろう 読 はりねずみと金貨	10	○人物の変化をとらえよう 読 走れ	10	I	3年は、登場人物の行動や気持ち、起こった出来事などについて、叙述を基に捉えることをねらいとする。まず、「はりねずみと金貨」の登場人物と、起こった出来事を確かめる。場面ごとに起こった出来事をまとめ、最後に「あらすじカード」を作る。 4年は、中心人物の気持ちの変化とその理由について考えて読むことをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返って、中心人物の変化を捉えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、教材文を読み、場面ごとに起きた出来事を確かめて中心人物の気持ちの変化を捉える。そして、中心人物の気持ちの変化とその理由について考えたことを友達と伝え合う。中心人物であるのぶの気持ちの変化を捉えることで、この物語の山場を押さえる。 ここでは、場面ごとの挿絵や文章を並び替える活動を行うことで、話の大体の内容を捉える。また、中心人物の変化を捉えるために、「最初はAだったのに、Bによって最後はCになった」という形を与えることで、自分たちで活動を進められるよう促したい。

6	ローマ字① 言葉	3	お願いやお礼の手紙を書こう 書	3 (-2)	IV	<p>*学習時間をそるえるため、4年は2時間減らして3時間抜いで行う。</p> <p>3年は、ローマ字で書かれた簡単な単語を読み、ローマ字を使って単語を書くことをねらいとする。簡単な単語をローマ字で読み書きするという学習課題を確かめ、ローマ字の表記の原則を理解する。そして、ローマ字を書く際に気を付ける点を確認し、読んだり書いたりする。身の回りにあるものや自分の名前などをローマ字で書き表すことで、学習の定着を図る。</p> <p>4年は、相手や目的に応じて書く事柄や言葉の使い方を考え、手紙の形式に気を付けて、お願いやお礼の手紙を書くことをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返って、相手や目的に合わせて手紙を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、教科書の手紙例を読み、目的に合わせた内容と用語を確認する。下書きをして、身の回りの人などに依頼や感謝の手紙を書く。</p> <p>ここでは、4年が各自で手紙を行う活動を行い、3年の直接指導の時間を多くとる。また、既にローマ字を学習している4年生が3年生にローマ字のクイズを出すなど、いっしょに活動を行う時間をとってもよい。</p>
	慣用句を使おう 伝統	3	ことわざと故事成語 伝統	3 (-1)	I	<p>*学習時間をそるえるため、4年は1時間減らして3時間抜いで行う。</p> <p>3年は、慣用句について知り、意味や使い方を調べて、自分の表現の中で使うことをねらいとする。4年は、ことわざや故事成語について意味や使い方を理解して使うことをねらいとする。それぞれ、国語辞典などを使って慣用句、ことわざや故事成語の意味や用例を調べる。1冊の冊子を作って、3年生、4年生が互いに見合うのもよい。</p>
7	書き手のくふうを考えよう 読 「ほけんだより」を読みくらべよう	10	表し方のちがいを考えよう 読 広告を読みくらべよう ローマ字の書き方 言葉	8 2	I	<p>3年は、二つの「ほけんだより」を読み比べて、書き手の目的や意図に照らして文章の工夫や効果を読み取ることをねらいとする。まず、教科書の二つの文章を読み比べて、どちらを「ほけんだより」に選ぶか考えるという学習課題を確かめ、学習の見通しを立てる。次に、教科書 p.94～95, p.96～97の二つの文章を読み比べ、それぞれの文章における書き手の目的や意図に応じた表現の工夫や効果を考える。そして、二つの文章における図や表、「みなさんへのアドバイス」などを読み取り、文章との関係を考えたり、有無の効果を考えたりする。最後に、二つの「ほけんだより」の表現の工夫によって生まれる読み手の感じ方を考えて、理由を明確にノートに書いて「ほけんだより」を選択する。</p> <p>4年は、同じ商品の二つの広告を読み比べて目的や意図に応じた表現の工夫や効果の違いを読み取ることをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返って、広告を読み比べて、表し方の違いを読み取るという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、教科書 p.88～89, p.90～91の二つの広告に書かれている言葉や写真を読み取り、表現の違いについて理解する。そして、二つの広告に書いてある言葉や写真を比べて、どんな目的や意図でどんな人に向けて作られているものなのかを考えたり、二つの広告全体のレイアウトから受ける印象や、広告の目的や意図による表現の工夫や効果の違いがあることに気づき、その違いをまとめたりする。最後に、二つの広告から読み取ったことを生かして、身の回りの広告について表現の工夫や効果を分析し、その考察を書いて、互いに読み合う。</p> <p>ここでは、二つのものを比べる際に、同じところや違うところに着目して、ペンで囲んだり、箇条書きで書いたりする。このように、スモールステップで学習を進めていくことで、自分たちで学習を進めていくことができるようにしたい。</p> <p>「ローマ字の書き方」についてのねらいは、ローマ字による日本語の音の表し方や二通りの書き方を理解し、ローマ字で書かれた単語を読んだり、身の回りの単語をローマ字で書いたりすることである。学習課題を明確にし、まず、ローマ字の書き方を確かめる。そして、書き方を確かめながら、身近なものや名前、地名をローマ字で書く。</p>
	本は友だち 読書	2	本は友達 読書	2	III	<p>同単元同教材で、3・4年いっしょに行う。読書の楽しさを知り、自分の興味に応じた本を選んで読むことをねらいとして、読書体験文を読み、教科書で紹介されている本などを手がかりに、読みたい本を探して読む。3年 p.108～109, 4年 p.106～107 を活用して、読書の幅を広げたり、読書記録をつけたりすることを促すようにして、読書生活の充実につなげたい。</p>
9	○詩を読もう 読 紙ひこうき/ 夕日がせなかをおしてくる	2	○詩を読もう 読 ふしぎ/よかったなあ	2	II	<p>3年は、場面の様子や人物の気持ちなどを具体的に想像することをねらいとする。まず、詩を音読し、想像したことや気づいたことを発表する。そして、それぞれの詩について想像を広げながら、グループで工夫して詩を音読する。</p> <p>4年は、詩に描かれた情景について想像を広げながら、詩を音読することをねらいとする。学習課題を明確にし、詩を音読し、想像したことや気づいたことを発表する。そして、それぞれの詩について想像を広げながら、工夫して詩を音読する。</p> <p>ここでは、最後に3・4年合同で音読発表会を開き、互いの音読を聞き合い感想を伝え合う。</p>
	グループの合い言葉をきめよう 話聞 ・生活の中の言葉	6 (-1)	学校についてしょうかいすることを考えよう 話聞 ・生活の中の言葉	6	II	<p>*学習時間をそるえるため、3年は1時間減らして6時間抜いで行う。</p> <p>3年は、話し合いの目的を理解して、司会の役割や話し合いの進め方を意識しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることをねらいとしている。まず、議題について考え、自分の意見をカードに書き出す。そして、話し合いの進め方を確かめ、グループで司会を立てて話し合う。</p> <p>4年は、話し合いの目的を理解して、司会者、提案者、参加者などの役割を果たしながら話し合い、結論をまとめることをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返って、役割を考えながら話し合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、議題と目的を確かめて、グループで話し合う。そして、グループの話し合いを振り返り、グループの提案を基に、クラスで話し合う。</p> <p>単元の最後には、互いに話し合いの様子を見合い、4年生は3年生が司会の進行に沿って互いに意見を述べ合っているかを評価し、3年生は4年生がそれぞれの役割を考えながら話し合っているかを評価する。</p>
	○人物につたえたいことをまとめよう 読 サーカスのライオン	11 (+1)	○物語の題名の意味を考えよう 読 一つの花	11	I	<p>*学習時間をそるえるため、3年は1時間増やして11時間抜いで行う。</p> <p>3年は、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、物語の中心人物について考えることをねらいとする。単元の学習の見通しを立てた後、「サーカスのライオン」の中心人物がどのような人物かを考える。そして、中心人物に伝えたいことを文章にまとめる。ここでは、まず、中心人物がじんぎであることを確認し、次に、場面ごとのじんぎの行動や様子をを読み取り、どのような人物だったのかをまとめる。</p> <p>4年は、物語の題名の意味について、物語の中の叙述と結び付けて具体的に考えることをねらいとする。まず、これまでに学習したことや読書経験を振り返って、題名の意味を考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、「一つの花」を読み、人物の気持ちの変化を想像する。そして、「一つの花」という題名の意味について考えたことを友達と伝え合う。ここでは、まず、初めて読んだときに題名の意味を考える。そして、登場人物の気持ちや様子を読み取りながら、「一つの花」という題名とどのような関係があるのかについて考えを深めていく。授業の最後に、初読のときとの考えの変化も含めて、題名の意味についての考えを友達と交流する。</p>
くわしく表す言葉 言葉 ・ことばあつめ	3	文の組み立てと修飾語 言葉 ・ことばあつめ	3	I	<p>3年は、様子を詳しく表す言葉を知り、文中の修飾・被修飾の関係を捉えることをねらいとする。まず、様子を詳しく表す言葉について知るという学習課題を確かめ、その働きを理解する。そして、様子を詳しく表す言葉と、それが係る言葉との関係を理解し、文の中で様子を表す言葉を使う。最後に、学習を振り返り、様子を表す言葉の働きについて理解したことを確かめる。</p> <p>4年は、主語、述語、修飾語それぞれの働きを理解し、文の構成を捉えることをねらいとする。まず、主語、述語、修飾語の働きを理解して文の構成を捉えるという学習課題を確かめる。次に、修飾語の役割を知り、主語、述語、修飾語からできている文の構成について理解する。そして、主語、述語、修飾語からなる文の語と語の関係を理解して、文の構成を図示したり文を作ったりする。</p> <p>ここでは、主語や述語、修飾語などに分けたカードを動かしながら、文を作ったり、様子を表す言葉集めを行ったりする。いずれの学年も、「ことばあつめ」のページを活用しながら取り組むようにし、様子を表す言葉についての語彙を豊かにしていきたい。</p>	

10	想ぞうを広げて物語を書こう 書	8	山場のある物語を書こう 書	8	I	<p>3年は、設定を考えて書く内容や中心を明確にし、段落相互の関係に注意して文章の構成を考えることをねらいとする。まず、教科書にある①②④の絵を見て、起こった出来事や「物語の設定」について考えたことや想像したことを話し合う。そして、教科書にある①②④の情報に基づき③の場面ではどんな出来事が起こったのか考え、「物語の設定」メモやあらすじを基に物語を書く。最後に、書いた物語の発表会を開き、楽しいと思ったり思ったところやおもしろいと思ったりしたところを伝え合う。ここでは、「物語の設定」をしっかり押さえる。今までの物語の学習で取り組んできた「いつ・どこで・だれが」や、登場人物の性格などを、事前にしっかり設定しておくことで、スムーズに物語を書き始めることができる。</p> <p>4年は、始まりの場面と終わりの場面の絵を見て、山場で起こる変化を想像し、構成を工夫して物語を書くことをねらいとする。まず、3種類の絵の組を見て、「物語の設定」について考えたことや想像したことを話し合い、自分の物語の絵を選んで自分の「物語の設定」を考える。そして、物語の組み立てを考え、「人物カード」や「組み立てメモ」を基に、物語を書く。最後に、書いた物語を互いに読み合い、楽しいと思ったり思ったところやおもしろいと思ったりしたところを伝え合う。ここでは、今までの物語の学習で学んだことを振り返って、「最初はAだったが、Bによって、最後はCになる話」を書くということを確認する。そこから、中心人物や物語の中で起こる変化について考えさせる。</p>
	○パラリンピックについて調べよう 読 パラリンピックが目指すもの ローマ字② 言葉	12 2	○くらしの中の「和」と「洋」について調べよう 読 くらしの中の和と洋	14	I	<p>3年は、目的を意識して、中心となる語や文を見付けながら文章を読み、書かれていることを要約することをねらいとする。まず、「パラリンピックが目指すもの」を読み、調べることを考える。そして、パラリンピックに関する本や資料を読み、調べたことをリーフレットにまとめて交流する。パラリンピックについて知っている児童が少なければ、事前にパラリンピックの映像や写真などを見せて、イメージを持たせる。また、実際に教師が作成したリーフレットをモデルとして紹介することで、児童に見通しを持たせるようにするとよい。</p> <p>4年は、何をどのように比べているかを読み取り、比較の仕方を意識して、調べたことをまとめることをねらいとする。まず、「くらしの中の和と洋」を読み、調べることを考える。そして、自分の課題について本や資料を読んで調べ、調べたことを基に紹介文を書き、完成した紹介文を読み合っ感想を伝え合う。ここでは、教材文を読む際に、和室と洋室のそれぞれの良さを、どのような観点に沿って事例を挙げ説明しているのかを確認する。そして、和室と洋室にはそれぞれの良さがあることをおさえる。このように、実際に紹介文を書く前に、筆者の説明文の書き方の構成も確認させる。</p> <p>「ローマ字②」のねらいは、ローマ字の読み書きを確かめるとともに、コンピューターでの入力に活用できるようにすることである。まず、ローマ字の表記について確かめる。そして、コンピューターで日本語を入力するときにローマ字を活用できることを理解する。ここでは、実際にコンピューターでローマ字を使って文を作るなどの活動を行ってもよい。</p>
11	話したいな、わたしのたしのすきな時間 話聞 案内の手紙を書こう 書 ・あて名の書き方	6 2 (-3)	聞いてほしいな、心に残っている出来事 話聞	8 (+2)	II	<p>*学習時間をそろえるために、3年の「案内の手紙を書こう」を3時間減らして2時間扱い、4年の「聞いてほしいな、心に残っている出来事」を2時間増やして8時間扱いで行う。</p> <p>3年は、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選び、組み立てを考えて話すことをねらいとする。まず、話題を決めて話す材料を書き出す。次に、材料の中から話の中心を選んで組み立てる。そして、話す練習をして、最後にみんなの前で話す。</p> <p>4年は、自分が感じたことが聞き手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して話すことをねらいとする。まず、話題を決め、材料を集める。そして、話を組み立て、話す練習をする。最後にみんなの前で話す。</p> <p>「案内の手紙を書こう」のねらいは、相手に伝える必要があることを落とさずに書くとともに、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることである。まず、大事なことを落とさずに案内の手紙を書くという学習課題を確かめ、単元の学習の見通しを立てる。次に、案内の手紙に必要な事柄と手紙の構成を考える。そして、下書きをし、清書する。</p> <p>参観日などの学校行事と組み合わせで行うことも考えられる。4年が発表の練習をしている間に、3年は保護者に向けて案内の手紙を書き、最後は、参観日で保護者に向けて、3年と4年が発表する。4年が案内の手紙を書くことも考えられる。</p>
	漢字の読み方 言葉 ・ことばあつめ	2 (-2)	つなぐ言葉の働き 言葉	2	I	<p>*学習時間をそろえるために、3年は1時間減らして2時間扱いで行う。</p> <p>3年は、漢字の音訓や送り仮名について理解することをねらいとする。まず、音訓や送り仮名に注意して漢字を正しく使うという学習課題を確かめる。そして、漢字の音と訓、送り仮名について理解する。ここでは、今まで習った漢字の音読み・訓読みについて調べる活動を行ってもよい。</p> <p>4年は、接続する語句の働きを理解して正しく使うことをねらいとする。まず、接続する語句の働きについて学習課題を確かめる。次に、接続する語句の働きを理解する。そして、練習題を行い、接続語の使い方について理解を深める。ここでは、文節ごとに区切ったカードを用意し、並び替えたり置き換えたりするなど、子どもたちが自分たちでカードを操作して活動できるようにする。</p>
12	○想ぞうしたことをつたえ合おう 読 モチモチの木	12	○読んで考えたことを伝え合おう 読 ごんぎつね	12 (-1)	I	<p>*学習時間をそろえるために、4年は1時間減らして12時間扱いで行う。</p> <p>3年は、文章を読んで中心人物の性格を想像し、感じたことや考えたことを共有することをねらいとする。まず、単元の学習の見通しを立てる。次に、豆太の性格を想像し、想像したことを友達と伝え合う。豆太の性格を想像する際には、場面ごとの豆太の行動や会話、様子から読み取っていく。場面ごとに、○○な豆太という見出しを考えさせることで、見通しを持って主体的に学習を進めるようにしたい。</p> <p>4年は、中心人物と他の人物との関わりについて考え、感想を伝え合うことをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返って、人物どうしの関わりを考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、「ごんぎつね」を読み、ごんと兵十の気持ちを考える。そして、物語を読んだ感想を友達と伝え合う。ごんと兵十の関係を読み取る際には、図を使ってごんと兵十の(心の)距離を書くことで、全体の場での交流も行きやすくなる。また、物語を通して兵十に対するごんの気持ちの変化にも気付くことができる。</p>
	自分の考えをつたえよう 書 ・図や表を使う	9 (+1)	「ふるさとの食」を伝えよう 書 ・文末の書き方	9	II	<p>*学習時間をそろえるため、3年は1時間増やして9時間扱いで行う。</p> <p>3年は、話題についての自分の考えが読み手に伝わるように、自分の考えとそれを支える理由を明らかにして文章を書くことをねらいとする。まず、書きたい話題を決め、自分の立場を決める。次に、考えを支える理由を整理し、自分の考えと理由を効果的に伝えるための構成を考える。最後に、読み手が分かりやすいように工夫して、文章を書く。文章を書く際には、「初め・中・終わり」の構成を意識して、考えと理由を書かせる。</p> <p>4年は、地域に伝わる料理や特産品の良さが読み手に伝わるように、自分が考える良さとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことをねらいとする。まず、お勧めしたい地域に伝わる料理や特産品を決める。次に、お勧めするものの良さを伝えるために、根拠となる情報を収集する。そして、リーフレットの割り付けを考え、リーフレットを作成する。授業の初めに、地域に伝わる料理や特産品の写真などを示し、興味を引き出す。単元の最後には、総合的な学習の時間の授業と合わせて交流する場を作ってもよい。</p>
	じゅく語の意味を考える 言葉 (4年学習材) ・ことばあつめ	3 (+3)	じゅく語の意味を考える 言葉 ・ことばあつめ	3	III	<p>*3・4年がともに、4年「じゅく語の意味を考える」について学習する。</p> <p>二字熟語の構成について理解し、文や文章の中で使うことができることがねらいである。まず、二字熟語の構成について学習課題を確かめる。次に、構成の五つの型を理解する。そして、練習題を行い、知識の定着を図る。最後に、二字熟語の構成について学んだことを確かめる。</p>
	本をしょうかいしよう 読	4	本をみんなにすすめよう 読	4	III	<p>3・4年がともに本を選び、みんなに紹介したり推薦したりする学習に取り組む。</p> <p>3年は、読みたい本を選び、文章を読んで感じたことや考えたことを共有することがねらいである。読んでもらいたい本の内容と紹介する理由を考えながら本を選び、本を紹介し合う学習を行う。</p> <p>4年は、本を読んで感じたり考えたりしたその本の魅力や良さを友達に伝えることがねらいである。まず、本の魅力や良さを伝えるために、本を選ぶ。次に、伝える方法について特徴や書く内容を理解し、自分の薦める方法を決める。そして、選んだ方法で、薦めたい本の魅力や良さを伝え合う。</p> <p>単元の最後には、互いに紹介したり推薦したりし合った本を読み合う活動を取り入れる。</p>

1	俳句に親しむ 伝統	3	百人一首の世界 伝統 ・得意な札を見つけよう	3	Ⅲ 3年は、易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことがねらいである。まず、五七五の音数や季語など、俳句の決まりについて知る。次に、教科書 p.75～77 の俳句を聞いて声に出し、暗唱したり短冊に書いたりして親しむ。そして、好きな俳句を選び、どこが気に入ったのかを短い文章にまとめる。 4年は、短歌を音読して言葉の響きやリズムを感じ取ったりかるた遊びをしたりしながら、伝統的な文化を楽しむことがねらいである。まず、短歌を音読して、短歌について知る。次に、短歌を音読して、好きな歌を選ぶ。そして、グループでかるた遊びを行う。 4年生が3年生と同じように、好きな俳句を選んでよい、また、3年生が4年生といっしょにかるた遊びを行ってもよい。
	心が動いたことを詩で表そう 書	3	心が動いたことを詩で表そう 書 (3年学習材)	3	Ⅲ *3・4年がともに、3年「心が動いたことを詩で表そう」について学習する。 ねらいは、生活の中で心が動いたことを探して想像を広げ、そのときの心の動きが伝わるように、言葉を集めたり選んだりして、伝えたいことを明確にすることである。まず、教科書 p.79 の詩を基に、詩を書くために必要なことや工夫の仕方を考える。次に、心が動いたことの中から、いちばん伝えたいことを選んで詩の題材を決め、心が動いたことをよく思い出し、詩を書く。そして、書いた詩を声に出して読み返し、推敲する。最後に、書いた詩を読み合い、表現のよさや工夫を見付けて共有する。
	言葉でつたえ合う 言葉	5	言葉で考えを伝える 言葉	5 (-1)	Ⅰ *学習時間をそろえるため、4年は1時間減らして5時間抜いで行う。 3年は、これまでの話し方や文章の書き方を振り返り、よりよく伝える表現について考えることがねらいである。まず、伝え方で気を付けることを知る。次に、伝え方で工夫することを知る。そして、さまざまな伝え方について知る。 4年は、自分の考えを相手に伝えるために大切なことを確かめ、自らの表現に生かすことがねらいである。まず、事実と考えを区別して述べる大切さや、自分の考えを伝える際の言葉の使い方を捉える。次に、自分の考えを支える理由の述べ方を捉える。そして、自分の考えと理由の関係を捉える。最後に、自分の考えを伝えるためにどのような点に気を付けるとよいかを振り返って、これからの学習や生活に生かそうという意識を高める。
2	○世界の家のつくりについて考えよう 読 人をつつむ形——世界の家めぐり	11	○日本語の数え方について考えよう 読 数え方を生みだそう	11	Ⅱ 3年は、筆者の考えと、理由や事例との関係に気を付けながら、筆者のものの見方や考え方を捉え、理解したことに基づいて感想や考えを持つことがねらいである。まず、これまでの学習を振り返り、単元の学習の見通しを立てる。まず、教材文を読んで、筆者が紹介している世界の家のつくりについて整理する。次に、整理したことを基に、家のつくりの工夫と、その土地の特徴やそこに住む人々のくらしとの関係について考える。最後に、学習したことを基にして、日本の家のつくりについて考える。 4年は、筆者の考えを読み取り、日本語の数え方に対する自分の考えをまとめることがねらいである。まず、教材文を読み、筆者がどのように自分の考えを述べているかを確認する。次に、筆者の述べていることに対して、思ったことや考えたことを話し合うとともに、日本語の数え方についての自分の考えを書く。最後に、筆者の考えを参考にして、新しい数え方を考える。 単元の最後には、互いの考えを伝え合って交流する。
	外国のことをしょうかいしよう 話聞	10	調べたことをほうこくしよう 話聞	10 (+1)	Ⅱ *学習時間をそろえるため、4年は1時間増やして10時間抜いで行う。 3年は、グループで調べたことを、聞き手に伝わるように、話の組み立てを考え、話し方を工夫することがねらいである。まず、グループごとに計画を立てて調べる。次に、調べたことを整理して、取り上げる事柄を選ぶ。そして、話の組み立てを考えて、ポスターを作り、説明の練習をする。最後にみんなの前で説明する。 4年は、アンケートの結果について、分かりやすく伝えるために、話の構成を考え、話し方を工夫して話すことがねらいである。まず、グループごとに、生活について調べることを決める。次に、グループで話し合い、アンケートを作って調べる。そして、アンケートの結果をまとめる。最後に、組み立てを考え、話す練習をし、調べたことを報告する。 単元の最後には、説明したり報告したりする活動を通して交流する。
	漢字の組み立てと意味 言葉	3 (+1)	同じ読み方の漢字 言葉 ・都道府県の漢字 ・キーボードの入力と漢字	3	Ⅰ *3年は「ゆうすげ村の小さな旅館」と学習順を入れ替えて行う。また、学習時間をそろえるために、3年は1時間増やして3時間抜いで行う。 3年は、漢字が「へん」や「つくり」などいくつかの部分から構成されていることや部首について理解することをねらいとする。まず、部首について知るとい学習課題を確かめ、「へん」や「つくり」などの部分の名称と代表的な部首の種類について知る。次に、同じ部首の漢字から意味の共通性を知る。最後に、部首について理解したことを確認し、学習を振り返る。 4年は、漢字にはそれぞれ意味があることを理解し、同音・同訓の漢字を正しく使い分けることをねらいとする。まず、同じ読み方の漢字について、正しく使い分けるという学習課題を確かめる。次に、漢字には一字一字意味があることを確かめ、同音異字・同訓異字の使い分けの練習をする。そして、いろいろな同音異字・同訓異字を探し、それらを正しく使い分けた文を考える。最後に、都道府県名で用いられる漢字、キーボード入力の漢字変換で注意することを確認し、同じ読み方の漢字について、学習したことを振り返る。
3	○物語のしかけをさがそう 読 ゆうすげ村の小さな旅館——ウサギのダイコン	13 (+1)	○読んで感じたことを伝え合おう 読 世界一美しいぼくの村	13	Ⅰ *学習時間をそろえるために、3年は1時間増やして13時間抜いで行う。 3年は、物語で起こった出来事を読み取り、物語の仕掛けを見付けることをねらいとする。まず、物語の内容の大体を捉え、物語の仕掛けを探す。そして、「ゆうすげ村の小さな旅館——ウサギのダイコン」と比較しながら「クマの風船」を読み、単元の学習を振り返る。ここでは、起こった出来事を読み取ることを通して、「美月がウサギであるという証拠(仕掛け)を見付けよう」と子どもたちに投げかけることで、意欲を持って学習に取り組むことができるよう促したい。また、自分たちで学習を進めるにあたって、○×クイズなどを行いながら仕掛けを探す活動を行ってもよい。同時並行で、同じ作者の作品である、しかけのある本を読むということに取り組んでもよい。 4年は、物語の結末について感じたことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことがねらいである。まず、「世界一美しいぼくの村」を読んで、感じたことや考えたことを伝え合う。次に、ヤモの思いを考え、感想を伝え合う。そして、「世界一美しい村へ帰る」を読み、感想を伝え合う。最後に、二つの物語のそれぞれの終わり方について、どのようなことを感じたかを振り返る。ここでは、ヤモが、自分が住んでいる村が世界一美しく、大好きだということ、戦争に行ったお兄さんをとても心配しているという思いをしっかりと押さえる。また、「世界一美しいぼくの村」では、最後の一文が衝撃的な終わり方になっている。そこから、ヤモたちが一体どうなったのか、大好きな村がなくなったヤモの思いにも触れたい。
	「わたしのベストブック」を作ろう 書	7 (-1)	「言葉のタイムカプセル」を残そう 書	7	Ⅱ *学習時間をそろえるために、3年は1時間減らして7時間抜いで行う。 3年は、1年間に書いた文章の中でよく書けていると思うものを友達と読み合い、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合って、自分の文章のよいところを見付けることをねらいとする。まず、1年間で書いた文章を読み返す。そして、友達の文章に賞状を書き、互いの文章のよいところを伝え合う。最後に、「わたしのベストブック」を作る。 4年は、1年間に書いた文章を読み返し、文章を書く学習を通じた自分の成長を振り返るとともに、学習したことを生かして、十年後の自分に伝えたいことを手紙に書くことをねらいとする。まず、1年間で書いた文章を読み返し、1年間で振り返る。そして、十年後の自分に手紙を書き、「言葉のタイムカプセル」を作る。手紙を書く際には、1年間に学んだ「言葉の力」を生かして書くようにする。 単元の最後には、互いに書いた文章を読み合い、1年間の学習の成果を振り返って、互いの成長を認め合う場を設けたい。

5・6年 複式年間指導計画案

*…複式学級の特性に応じて配慮が必要となる場合の留意事項

I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い

II…同領域異教材だが、一部一斉に行う扱い

III…同領域同教材（5・6年同時に行い、「わたり」を行わない扱い）

月	単元名・教材名 5年	配当時間	単元名・教材名 6年	配当時間	取り扱い	単元展開の概要・留意点
4	この言葉、あなたならどう考える 話聞	2	気持ちよく対話を続けよう 話聞	2	III	<p>国語学習のスタートとして、わたりを行わず、5・6年がいっしょに学習をする。第1時は、5年「この言葉、あなたならどう考える」の教科書の対話例を読み、話の内容が明確になるように、互いに考えを伝え合うための対話の仕方を学習する。話題となる言葉の意味を挙げ、その理由を尋ねること、また、別の意味を挙げること、そして、意見に対して自分の考えを伝えることを行う。第2時は、会話がうまくいかなかった場合の原因やよりよい対話の在り方について、6年の「気持ちよく対話を続けよう」を使って学習する。</p> <p>第3時は、5年の「事実と考えを区別しよう」の教科書 p.12 のグラフから分かる事実と考えたことを書いて、事実と考えを区別するという学習課題を確かめ、書いたものを見せ合って、気付いたことを話し合う。それから、教科書 p.13 のグラフから分かる事実と考えたことを文章で表に整理し、学習したことをまとめる。第4時は、6年「原因と結果に着目しよう」を使い、原因と結果の関係が分かるように文を書くという学習課題を確かめる。そして、3つの文章を読んで、気付いたことを伝え合う。そのうえで、体験や知識を基にして、原因と結果の関係が分かるような文章を書き、学習したことをまとめる。</p> <p>このように、対話の仕方、事実と考え、結果と原因について、高学年の国語科で学習するという国語教室開きを行う。</p>
	事実と考えを区別しよう 書	2	原因と結果に着目しよう 書	2		
	○人物の思いを音読で伝えよう 読 だいじょうぶ だいじょうぶ ・国語のノートの作り方	4	○朗読で表現しよう 読 サボテンの花／生きる ・国語のノートの作り方	4		
5	図書館へ行こう 読書	2	図書館へ行こう 読書	2	III	<p>5年は、文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、まとめることをねらいとして学習する。まず、文章の構成を捉えて要旨をまとめるという学習課題を知り、文章に書かれている内容について、叙述を基に三つの実験・観察の内容を押さえる。特に専門用語が多いので言葉の意味を確認しながら読む。それから結論部分を中心に文章の要旨をまとめ、考えたことを伝え合う。</p> <p>6年は、文章の構成や事例を捉え、筆者の論の進め方についての考えをまとめることをねらいとして学習する。まず、筆者の論の進め方について考えるという学習課題を知り、「イースター島になぜ森林がないのか」を読み、教科書 p.44 の手引きを参考に構成と要旨を押さえる。そして、イースター島から森林が失われた過程とその原因を読み取りながら、筆者の論の進め方について考えたうえで、筆者の論の進め方に対する自分の考えを話し合い、文章にまとめるようにする。</p> <p>学習材が長文であることから序論・本論・結論は教師から示すことや、要旨の一部を示すなどの配慮をすることも、児童の実態に応じて行っていく。</p>
	○筆者の伝えたいことをまとめよう 読 動物たちが教えてくれる海の中のくらし	7	○筆者の論の進め方を確かめよう 読 イースター島にはなぜ森林がないのか	7	I	
	漢字の成り立ち 言葉	2	さまざまな熟語 言葉	2	I	
6	知りたいことを聞き出そう 話聞	4	友達の意見を聞いて考えよう 話聞	4	II	<p>5年は、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること、6年は他の人の意見と自分の意見を比較して、自分の考えをまとめることをねらいとして学習する。まず、5・6年いっしょの活動を行う。インタビュー（質問）の題を知り、インタビューをするときに気を付けることを確かめる。そして、5、6年それぞれ分かれて、話を聞く意図や目的を確かめ、インタビューで聞きたいことを考え、整理する。整理ができれば、5年は6年に、6年は5、6年にインタビューを行う。それから、また学年に分かれて、インタビューで知ったことを基に、自分の考えをまとめる。そうして、5年は、話を聞き出すためにどのようなことに気を付けて聞いたかを振り返り、身に付けた「言葉の力」がどんな場面に役立つかを考え、これからの学習や生活に生かそうという意識を高める。また、6年は他人の意見を聞き、それを自分の考えにどう生かしたかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。</p> <p>5年はインタビューで聞きたいことを明確にすること、6年は自分の考えと友達との考えを比較することを中心とした、話す・聞く活動を行う。</p>
	環境問題について報告しよう 書	7	防災ポスターを作ろう 書	7	III	
6	○山場で起こる変化について考えよう 読 世界でいちばんやかましい音	7	○人物どうしの関係を考えよう 読 風切るつばさ	7	I	<p>*5年の「環境問題について報告しよう」は、p.226「資料を見て考えたことを話そう」といっしょに行うことも考えられる。その際、本単元は、5、6年いっしょに防災ポスター作成に取り組むことも考えられる。</p> <p>5・6年が、環境問題について報告する資料、防災ポスターのいずれかを選択して書く活動に取り組む。いずれも、集めた資料を活用し、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること、表現の効果を考えて資料を書くことをねらいとして学習する。環境問題については、調べるテーマを決めてから、図表やグラフの読み取りに注意し、調べて分かったことを整理する。それから、資料を効果的に使うことに気を付け、調べたことを報告する文章の構成を考え、構成を基に文章を書く。</p> <p>防災ポスターについては、調べて集めた情報を整理し、どのように情報を配置するのかを考え、ポスターの割り付けを考える。そのうえで、キャッチコピーや見出しを考えてポスターにまとめる。できあがった資料は、友達と読み合い、感想を伝え合う場を持つようにする。付箋を利用して気づいたことを資料に貼るような場を持つことが有効である。</p> <p>なお、使用した資料や、作った発表資料・ポスターは残しておき、翌年以降のモデルとして活用できるようにしておく。</p> <p>5年は、物語の構成を捉えて物語の全体像を具体的に想像し、読み取ったことに基づいて自分の考えをまとめることをねらいとして学習する。まず、物語の構成を捉え、山場で起こる変化について考えるという学習課題を明確にし、「世界でいちばんやかましい音」を読み、物語の構成を捉える。それから、山場で起こる変化について考え、考えたことを友達と伝え合う。</p> <p>6年は、人物どうしの関係を手がかりに、人物の心情を考えながら読むことをねらいとして学習する。人物の関係と心情の変化を捉えるという学習課題を明確にし、「風切るつばさ」を読み、物語の出来事を押さえ、人物どうしの関係を捉える。そのうえで、人物どうしの関係を踏まえながら、クルルとカララの心情とその変化について考える。</p> <p>5年は、物語の山場でどのような変化が起こったと考えたかを中心にとりまとめ、中心人物である王子だけでなく、ガヤガヤの町の変化にも目を向ける。また、6年は、人物の心情の変化をクルルとカララの関係から押さえ、自分の考えや友達の考えをノートに整理する。</p> <p>物語を読む授業においては、出来事をカードにして並べ替えることや、話し合った際の友達の考えをノートに書くなどの活動を間接指導の場に取り入れることにより、学習を成立させる。</p>
	文の組み立てを捉えよう 言葉 ・ことばあつめ	2	複合語 言葉 ・ことばあつめ	2	I	

7	○書き手の意図を考えよう 新聞記事を読み比べよう	7 (+1)	○インターネットの議論を考えよう インターネットの投稿を読み比べよう	7	I	<p>*5年は、6年の学習とそろえるため、1時間増やして7時間抜いで行う。</p> <p>5年は、新聞記事を題材に、文章全体の構成を捉えたり文章と図表などを関係付けたりして要旨を把握して、書き手の意図について考えることをねらいとして学習する。まず、教科書 p.80～83 を読み、新聞の特徴や役割、記事の構成と写真の役割を理解する。そのうえで、p.84・85 のA社とB社の記事を読み比べ、共通点や相違点を基に書き手の意図を考えて話し合う。このとき、「A社とB社の写真を入れ替えることができるか?」といった発問をすることで、写真と書き手の意図との関係に気づく。その後、各自で新聞を持ち寄り、記事と写真に合った見出しを書く活動を行う。</p> <p>6年は、インターネットに投稿された意見を題材に、複数の文章を読み比べて、それぞれの説得の工夫を読み取ることをねらいとして学習する。まず、投稿1～11を読み比べて、説得の工夫や効果について考える。ここでは、意見⇒理由の述べ方、体験を理由とする、具体的な数値を挙げる、有名な人の言葉を引用する、ことわざや格言を使う、疑問を投げかけるなどの表現の工夫があることを読み取る。そのうえで、投稿1～11の中から、自分が納得できる意見や主張を選択し、自分の意見を文章にまとめるようにする。インターネットの議論は情報モラルの問題とも関わり、発言者の顔が見えないことによる配慮が必要であることも理解させたいものである。1～11の中で、書き手として気をつけるべきことがなかったかと問うことも必要である。</p> <p>5、6年ともに、記事やインターネットの意見を拡大した資料を提示し、共通点や相違点、自分の考えを付箋に書いて提示した資料に貼るといった活動を行ってから話し合うといった場を仕組む工夫が有効である。</p>
	本は友達	2	本は友達	2	III	同領域同教材で5・6年いっしょに行う。児童の実態に応じ、読んだ本を紹介し感想を書く活動や音読する活動、写す活動を行い、多読につなげる。また、教科書の「〇年生の本だな」から本を選んで読む。読書記録を書くことを取り入れて、読書の足跡を残す習慣を身につけさせるよう心がける。
9	詩を読もう 紙風船/水のこころ	2	詩を読もう いま始まる新しいいま	2 (+1)	III	6年の配当時間に予備1時間を加えて2時間抜いとし、5年の詩2編、6年の詩1編の両方を読む。1時間目は「紙風船」と「水のこころ」を、2時間目は「いま始まる新しいいま」を読み、詩から自分が感じたことが伝わるように工夫して音読する。
	問題を解決するために話し合おう ・生活の中の言葉	6 (+1)	話し合って考えを深めよう ・生活の中の言葉	6	III	<p>*5年の配当時間に予備1時間を加えて6時間抜いとし、両方の学年の時数をそろえるようにする。</p> <p>意図を明確にしながらか計画的に話し合い、互いの意見を分類したり整理したりして、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることをねらいとして学習する。</p> <p>まず5年教科書 p.105、6年教科書 p.99 の例を読み、話し合いがまとまらない原因を探る。そうして、ただ意見を出すだけや反論するだけではまとまった話し合いにならないことを知る。そのうえで、5年教科書 p.108 の付箋メモを利用すること、6年教科書 p.101～の話し合いの例での司会者の役割や p.104 の表の整理といった方法を学ぶ。それから、身の回りにある問題から解決したいものを探して、議題を設定し、意図を明確にして、グループで計画的に話し合う。</p> <p>全員で話し合うのではなく、話し合うグループとそれを観察するグループに分かれるようにする。そして、観察するグループは意図を明確にしているか、整理しようとしているかを評価し合えるようにする。</p>
	敬語の使い方	2	場面に応じた言葉づかい ・言葉は変わる	2 (-1)	III	<p>*6年は、5年の学習とそろえるため、1時間減らして2時間抜いで行う。</p> <p>第1時は、敬語を理解することを中心とした学習を行う。6年は既習であるが、敬語の理解、特に尊敬語と謙譲語の区別は難しく、再度の学習をする機会を設けることは6年にとっても有効である。まず、5年教科書を活用して、敬語の種類や使い方を理解する。そして、敬語に書き換える練習題に取り組んだり、敬語を使った会話文を作ったりして、敬語の使い方について理解を深める。</p> <p>第2時は、6年教科書を活用して相手や場面に応じた言葉遣いを理解し、適した言葉を選んで使うことを中心とした学習を行う。教科書 p.108 の例を読み、場面に応じてどのような言い方をすればよいか考えながら言葉を使い分け、そのよさを確かめる。それから、相手や場面に応じた言葉遣いについて理解したことを確かめる。</p> <p>5・6年でいっしょに学習することで敬語の知識を得ることにとどまらず、実際に用いることで敬語への理解を深めるようにする。</p>
10	○物語のおもしろさを解説しよう 注文の多い料理店	8	○物語を読んで、考えたことを伝え合おう 海のいのち	8 (-2)	I	<p>*6年は、5年の学習とそろえるため、2時間減らして8時間抜いで行う。</p> <p>5年は、人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりし、見つけたおもしろさを解説する文章を書くことをねらいとして学習する。まず、「注文の多い料理店」から表現の工夫を見付けて物語のおもしろさを解説する文章を書くという学習課題を知り、学習の見通しを持つ。それから、「注文の多い料理店」を読み、物語の構成を確かめ、物語をおもしろくしている表現の工夫を探す。そうして、おもしろさの秘密を解説する文章を書き、友達と読み合う。ここでは、「なぜ紳士は山猫軒に入ったのか?」「扉の言葉の意図は?」「山猫は紳士を本当に食べるつもりがあったのか?」「紳士は最後に反省したのか?」などのテーマを設定し、話し合う活動を行う。</p> <p>6年は、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考え、考えたことを文章にまとめることをねらいとして学習する。まず、「海のいのち」を読み、物語が最も強く語りかけてきたことを考えるという学習課題を知り、学習の見通しを持つ。それから、「海のいのち」を読み、物語で起こる出来事と中心人物の変化について考える。そのうえで、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを短い言葉でまとめる。この物語は、中心人物太一の成長の物語であるが、それぞれ、太一とおとう、太一と与吉いさ、太一と母、太一と瀬の主、そして、エンディング(太一と母)といった中人物とその他の人物からどのようなことを学び、どんな関係であったかを読むと、太一の成長を読み取ることができる。</p> <p>その時間の読み取るテーマを自分の言葉で短く書き、ホワイトボードなどを活用して自分の考えを提示し、話し合うことで、間接指導を成立させることができる。また、話し合った後、友達の考えをノートに書く活動も取り入れるべきである。</p>
	古文に親しむ	3	漢文に親しむ ・日本の文字	3	I (単元の最後に交流の場を持つ。)	<p>5年は、古文を読んで気付いたことや感じたことについて話し合ったり、自分の考えを書いたりして、自分の考えを広げることをねらいとして学習する。まず、学習課題を確かめた後、「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくのほそ道」をそれぞれ音読し、言葉の響きを味わう。それから、四つの古文から好きなものを一つ選び、気付いたことや感じたことについて、同じ作品を選んだ友達と話し合い、選んだ古文について、自分の考えを書く。</p> <p>6年は、漢文を音読し、言葉の響きやリズムなどに親しむことをねらいとして学習する。まず、学習課題を確かめた後、教科書に取り上げられている漢文を音読し、漢文について知る。それから、好きな漢文の一つを選び、選んだ理由や気に入っているところを文章にまとめる。</p> <p>単元の最後には、5年生が古文を6年に、6年が漢文を5年生に音読するといったいっしょに行う活動を行い、互いに交流する。そして、6年は5年へ、昨年度の学習を思い出しながらかリズムよく音読できていることを評価し、5年は初めて聞く漢文の音読を聞いての感想を6年に伝えるようにする。そうして、古文、漢文への理解が深まるようにする。</p>
11	○和の文化について調べよう 和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる ・さまざまな資料を活用しよう	13	○町の未来をえがこう 町の幸福論 ーコミュニティデザインを考える ・情報を活用するときに気をつけよう	13	I (単元の最後に交流の場を持つ。)	<p>*6年は、5年の学習とそろえるため、教科書の学習順序を入れ替えて、「文と文とのつながり」を「町の幸福論」の後に行う。</p> <p>5年は、文章と資料を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりするといった読むことと、目的に応じて資料を活用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことといった書くことをねらいとして学習する。まず、必要な情報を見付けたり、資料を使って説明したりするという学習課題を知り、「和の文化を受けつぐ」を読んで、筆者の説明の仕方を読み取る。特に、本論1の年表、本論2、3の写真の効果について考える。そうして、和菓子以外の「和の文化」について調べ、情報を集め、情報を整理して報告の文章を書き、パンフレットを作る。</p> <p>6年は、複数の資料を読み、必要な情報を関係付けながら、それらを目的に応じて活用することといった読むことと、自分の考えを伝えるために、構成を工夫したり資料を活用したりするなどの工夫をして発表するという話す・聞くことをねらいとして学習する。まず、自分たちの町の未来について考える「町の幸福論」を読んで、自分たちの町について考える。この時、本論1での写真・表、グラフの効果について考える。そうして、町作りについて調べて、提案を考え、プレゼンテーションを作成して発表し合い、意見の交流をする。</p> <p>単元の最後には、5年生が和の文化について調べた作品を展示し、また、6年は町作りについて発表する。その際、5年は、どうやって必要な情報を集めたかや、分かりやすく説明するためにどのように資料を使ったかについて評価をもらい、6年は、どのような情報をどう関係付けたか、どのような工夫をしてプレゼンテーションをしたかについて評価をもらうようにする。</p>

	伝えたい、心に残る言葉 話聞	5	伝えたい、心に残る言葉 話聞 (5年学習材)	5 (+5)	III	5, 6年がいっしょに5年の学習材「伝えたい、心に残る言葉」を学習する。ねらいは、目的や意図に応じて、話の構成や表現を工夫して、伝えたいことが印象に残るように話すことである。まず、伝えたいことが印象に残るように話すという学習課題を知り、心に残っている言葉を思い起こし、伝えたい言葉を決める。そして、話す材料を集めてメモに整理し、伝えたいことが印象に残るように、話の構成を考えて、話す練習をする。それから、みんなの前で話す。 この単元では、5年生と6年生が組を作り、共同で発表練習をすることや、5年生が発表して6年生が表現を工夫したところを評価するなどの活動を組むようにする。また、6年は予備の時間を使つての学習のため、発表のときだけ参加するといった工夫を行ってもよい。
	和語、漢語、外来語 言葉 ・話し言葉と書き言葉	2	文と文とのつながり 言葉	2	I	*6年は、5年の学習とそろえるため、教科書の学習順序を入れ替えて、「文と文とのつながり」を「町の幸福論」の後に行う。 5年は、和語、漢語、外来語の由来や区別について関心を持つことをねらいとして学習する。まず、教科書 p.164・165 の和語、漢語、外来語の説明を読み、ノートにまとめる。そして、p.165 の練習題に取り組む。 6年は、接続語句や文末表現などに注目し、文と文との接続の関係を捉えることをねらいとして学習する。まず、教科書 p.134 の文例①～③を読み、文のつながり方が一つではないことを知る。そして、p.135～136 を読み、意味を分かりやすくするための文と文とのつなげ方の工夫を知り、学んだことをノートにまとめる。 5・6年も教科書から読み取り、ノートにまとめるといった自分で学習を進める方法を取り入れることで、複式での授業を成立させていく。
	○朗読で表現しよう 読 大造じいさんとがん	8	○関連する作品を読んで、すいせんしよう 読 ヒロシマのうた	8	I	*6年は、5年の学習とそろえるため、「世界に向けて意見文を書こう」と「ヒロシマのうた」の学習順を入れ替えて行う。 5年は、描写を基に中心人物の人物像を具体的に想像することをねらいとして学習する。まず、人物像を想像し、印象に残った場面を朗読で表現するという学習課題を知る。そして、「大造じいさんとがん」を場面ごとに読む活動を行いながら、大造じいさんの人物像を想像する。特に、場面ごとに大造じいさんの残雪への思いがどのように変化しているかをまとめていく。それから、いちばん印象に残ったところを朗読で表現し、朗読を聞き合い、それぞれのよさや、感じ方や考え方の違いを伝え合う。 6年は、戦争や平和について書かれた作品を読み、それらを関連付けて自分の考えを深めることをねらいとして学習する。まず、複数の作品を関連付けて読むという学習課題を知る。そして、「ヒロシマのうた」と、戦争や平和をテーマにした他の作品とを、並行して読む。その後、読んだ作品から推薦したいものを選び、「すいせんカード」を作つて紹介する。 この単元においては、学習材の内容を考慮し、5年、6年それぞれの学年内で読んだ感想を伝え合う。特に「ヒロシマのうた」は、社会科で戦争の学習をしていることとの関連を図るようにするとより内容の理解につながる事が予想される。
12	反対の立場を考えて意見文を書こう 書 ・文章の種類	7 (+1)	世界に向けて意見文を書こう 書 ・目的や意図に応じた書き方	7	I (単元の最後に交流の場を持つ。)	*6年は、5年の学習とそろえるため、「世界に向けて意見文を書こう」と「ヒロシマのうた」の学習順を入れ替えて行う。 *5年は、6年の学習とそろえるため、1時間増やして7時間抜いで行う。 5年は、自分の意見とその理由、反対意見への対応を明確にして、文章全体の構成や展開を考え、筋道の通った意見文を書くことをねらいとして学習する。まず、教科書 p.186～187 の「クラスをよりよくしていくにはどうすればよいか」という話題と意見文を読む。そして、この意見文に対しての反対意見を予想し、その対応を考える。それから、説得力のある文章になるように構成を考え、構成メモを作り、メモを基に意見文を書く。 6年は、事実と感想、意見を区別し、説得力を持つように書き表し方の工夫をして意見文を書くことをねらいとして学習する。まず、教科書 p.158・159 の話題提示と意見文の例を読む。それから、フェアトレードに関する情報を収集し、フェアトレードについての考えを深める。そして、フェアトレードについての自分の主張を考え、効果的な資料の活用や構成を意識して、構成メモを書き、意見文を書く。 5年は、反対意見を予想して意見文を書くことができたか、6年は、教科書 P.160・161 の資料の解説と自分の考えとを関連付けて書くことができたかを評価し合う。なお、書いた意見文は残しておき、翌年以降のモデルとして活用するようにしておく。
	友達といっしょに、本をしょうかいしよう 読	2	読書とわたし 読	2	III	5, 6年いっしょに行う。ねらいは、本と本とのつながりや自分と読書との関係を捉え直し、本を紹介し合い、読書生活を広げることである。教科書の例を参考に、①つながりのある本を紹介する、②自分と読書との関わりを紹介する、のいずれかのテーマを決め、グループで本を紹介する。そして、発表を聞き、読んでみたい本について伝え合う。その後、友達と話したことを基にして、これからの読書生活について考える。
	古文のえがく四季 伝統	3	いにしへの言葉に学ぶ 伝統	3	I (単元の最後に交流の場を持つ。)	5年は、古文とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、現代の自分たちと比べて考えることをねらいとして学習する。まず、「枕草子」とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、自分たちと比べてみるという学習課題を知る。そして、「枕草子」の作者のものの見方や感じ方を、自分たちと比べながら捉え、四つの季節の中から好きなものを選び、自分が感じるその季節のよさを文章に書く。それから、書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 6年は、昔の人のものの見方や考え方を知り、それを、現代に生きる自分たちと結び付けて考えることをねらいとして学習する。まず、昔の人のものの見方や考え方をこの学習課題を知る。そして、「昔の人からの手紙」と教科書に挙げられている古典の名言を読み、昔の人のものの見方や考え方と、現代の自分たちとの関係を考える。それから、心に残った古典の名言を選び、自分の経験や知識と結び付けて文章にまとめる。 5, 6年共に、昔の人のものの見方や考え方・感じ方と現代の自分との考え方の比較を行うことがテーマとなるために、単元の最後には、書いたものを読み合い、互いの考えを交流する。
1	心が動いたことを三十一音で表そう 書	4	心が動いたことを十七音で表そう 書	4	III	*6年は、5年の学習とそろえるため、「心が動いたことを十七音で表そう」と「表現をくふうする」を入れ替えて行う。 5, 6年いっしょに行う。ねらいは、生活経験から題材を選び、全体の構成や書き表し方などに着目して、表現を整えて書くことである。 5年教科書 p.204・205, 6年教科書 p.207 の作品例を読み合い、短歌・俳句の形式で、生活の中での発見や感動を表現するという学習課題をつかむ。それから、短歌形式か俳句形式のどちらかを選ぶ。もちろん、両方選んでもよい。必要に応じて、連想メモ使つて題材を集める方法を試す。なお、短歌や俳句については、『はがき歌』全国コンテスト(松山市立子規記念博物館)や「一茶まつり全国小中学生俳句大会」(炎天寺)など、各種コンクール等の入選作品を参考にするとよい。そして、できた作品を読み合い、感想を伝え合ったり、表現のよさや工夫を見つけて共有し合ったりする。
	熟語を使おう 言葉 ・ことばあつめ	2	表現をくふうする 言葉 ・ことばあつめ	2	I	5年は、熟語の構成や使い方について理解することをねらいとして学習する。まず、教科書を読み、構成の五つの型を確かめる。そして、漢字の読み方と意味の関係を確かめ、その後、教科書の練習題に取り組む、理解を深める。このとき、熟語③④の区別が難しいという声から児童から出る場合がある。そこで、二字の熟語の場合、③は上から訓読みをする(鉄橋:鉄の橋, 再考:再び考える)、④は下から訓読みをする(読書:書を読む, 乗馬:馬に乗る)という区別の仕方を伝えるようにする。 6年は、比喩や反復、倒置などの表現の工夫について理解することをねらいとして学習する。まず、教科書を読み、三つの表現の仕方の違いと効果を知る。そして、知った表現の仕方をういて教科書の練習問題を解くことや、教科書の作品などからそれらを見つける活動を行う。なお、この単元は、これまでの書くことの単元に組み込んで学習することも可能であるため、カリキュラム編成において6年は省くことも可能である。

	○テクノロジーの進歩について考えよう 「弱いロボット」だからできること 読	8 (+1)	○さまざまな生き方について考えよう プロフェッショナルたち 読	8	I	<p>*5年は、6年の学習とそろえるため、1時間増やして8時間抜いで行う。</p> <p>5年は、あるテーマについて異なる面から見た複数の文章を、読んで自分の経験や知識と照らしたりしながら多角的に捉え、自分の考えを深めることをねらいとして学習する。学習課題をつかんだ後、テクノロジーの進歩について、知っていることや思ったことを話し合い、単元に入る準備をする。そして、「『弱いロボット』だからできること」を読み、書いてあることを確かめたり、「資料」の内容について考えたりする。特に、「弱いロボット」という題名の言葉から思ったことを出しておき、最後まで読み終えたとき、改めて「弱いロボット」という言葉を使って題名を付けた筆者の意図について話し合い、理解することに努める。そうして、テクノロジーと私たちの関わりについて、自分の考えをまとめ、書いた文章を読み合い、互いの考えのよいところや自分の考えと違うところについて話し合い、単元に入る前と今では、自分の考えがどのように変わったかをまとめる。</p> <p>6年は、文章を読んで、そこに書かれた人物の生き方や考え方から、自分の将来や生き方について考えることをねらいとして学習する。プロフェッショナルの生き方から自分の将来や生き方について考えるという学習課題を捉えた後、「プロフェッショナルたち」を読んで、3人のプロフェッショナルたちについて書かれていることを整理する。その際、プロフェッショナルとはどういった人かを出し合い、読み終えた後、その考えに変化があったかを振り返るようにしておく。また、3人の話を読む時は、どこでプロフェッショナルになったのかという課題を示しながら読む。そうすることで、成功したときだけでなく、困難に直面したときからプロフェッショナルに向かっているという考えを持つことができるようになる。その後、3人のプロフェッショナルたちが、それぞれどんな思いや考えを持って仕事に取り組んでいるかについて考え、自分はどんな「プロフェッショナル」になりたいかを文章にまとめる。</p> <p>この単元では、5、6年の交流を特に設定しない。5年は社会科の学習との関連で、教科書を読み、学年で自分の考えの変化について話し合うようにする。一方、6年は、卒業を前に自分の今後について考える時期だけに、プロフェッショナルについての自分の考えの変化を学年で出し合い、交流するようにする。</p>
	日本語と外国語 言葉	4	言葉の学習をふり返る 言葉	4	III	<p>*5年は、6年の学習とそろえるため、「日本語と外国語」を「資料を見て考えたことを話そう」の前に行う。</p> <p>*日本語について興味を持ち、言葉の学習への意欲化を図るため、5、6年いっしょに行う。</p> <p>第1、2時で、5年の教科書を用いる。まず、単元の学習課題を知り、教科書を読んで、音と文字の関係、文の組み立てと語順から、日本語の特徴を捉える。それから、通常で学習している外国語(英語など)と日本語の違いについて話し合い、日本語を大切にするという思いを持つように努める。第3、4時は、6年の教科書を用いる。教科書P.226～229を使って、文の組み立てやつながりを分かりやすくする方法や文を分かりやすく書く方法、そして、文章全体を分かりやすく整理する方法を捉える。それから、教科書p.230の練習問題を解く。ここでは、練習を解くだけでなく、このページに記されている「本気で伝えたいと思う気持ち」についてこれまでの学習や日常生活における体験を出し合いながら、理解するように努める。そうして、どのような表現の工夫がどんなときに生かせるのかを振り返って、これからの学習や生活に生かしていく意識を高める。</p>
2	資料を見て考えたことを話そう 話聞	5	「卒業文集」を作ろう 書	5	学校や学級の行事の都合により、I、II、IIIを使い分ける。	<p>*2月の後半から3月にかけて、6年は卒業に関わる活動が入ってくることで予想される。そのため、通常の授業を組むことが困難になることを想定して、この計画では、単元の入替えを行い、そうした行事にも柔軟に対応できるようにする。</p> <p>〔5年〕 資料を見て考えたことを話そう (教科書P.50の「環境問題について報告しよう」と合わせて行うこともできる。また、家庭科の食品の学習とも関係付けることも可能である。)</p> <p>自分の考えが明確に伝わるように、話の構成を考え、資料と関係付けて話すことをねらいとして学習する。資料から分かったことを基に自分の考えを発表するという学習課題を知り、資料を読み、自分の考えをまとめる。それから、最も伝えたいことは何か、どの資料からどういうことを考えたのかが明確になるように、話の構成を考える。そうして、自分の考えを資料と関係付けて発表し、自分の考えを明確に伝えるために、どんなことに気を付けて話の構成を考えたり資料を使ったりしたかを振り返る。</p>
	○伝記を読んで感想文を書こう 手塚治虫 読	7	聞いてほしい、この思い 話聞	5		<p>〔5年〕 伝記を読んで感想文を書こう 手塚治虫</p> <p>伝記に描かれている人物の考えや生き方を読み取り、自らの考えを深めることをねらいとして学習する。伝記に描かれている人物の考えや生き方を読み取り、感想文を書くという学習課題を知り、その準備として手塚治虫の伝記を読むという学習の見通しを持つ。そして、教科書より、手塚治虫の考えや生き方を読み取る。このとき、年表のワークシートに出来事を書き込みながら読む活動を行い、考えや生き方をしっかりとつかむ。そうして、興味を持った人物の伝記を読み、感想文を書く。その際、手塚治虫との共通点や自分の感想の共通点も加えて、感想を膨らませる。</p>
3	「わたしの文章見本帳」を作ろう 書	4	○未来に向かって 君たちに伝えたいこと／春に 読	4		<p>〔5年〕 「わたしの文章見本帳」を作ろう</p> <p>文章の種類ごとに整理しながら文章のよさを見付け、そのよさを生かして、書いた文章を別の種類の文章に書き換えることをねらいとして学習する。文章のよさを見付けて生かし、別の種類の文章に書き換えるという学習課題を知り、1年間で書いた文章を読み直す。そして、教科書p.267を参考にし、種類ごとに整理する。それから、書いた文章の中から一つ選び、文章の種類を換えて書き、学級でまとめて文章見本帳を作る。この見本帳は、来年度の5年生の学習資料として活用することを伝える。</p> <p>〔6年〕 「卒業文集」を作ろう／聞いてほしい、この思い</p> <p>小学校6年間の経験を振り返り、伝えたい思いや考えを文章にまとめるとともに、自分の思いが伝わるように、聞き手の興味・関心に応じて表現を工夫し、話の構成を考えて話すことをねらいとして学習する。</p> <p>まず、これまでの学習や小学校生活を振り返って、思いを伝える文章を書き、発表するという学習課題を確かめ、学習の見通しを立てる。そして、6年間の経験から、書くことを探し、どのような出来事を取り上げるかを考え、文章の構成を整理する。それから、表現を工夫して文章を書く。その後、「卒業文集」を読み返し、スピーチの組み立てや工夫を考えて練習する。そうして、スピーチをし、書いた文章の工夫やスピーチの工夫を振り返る。</p> <p>「卒業文集」は、学級でまとめ、教室にも置いておき、次の6年の学習の見本として活用することを伝える。</p> <p>〔6年〕 未来に向かって 君たちに伝えたいこと／春に</p> <p>文章と詩を読んで、自分の考えを広げたり深めたりすることをねらいとして学習する。まず、「君たちに伝えたいこと」を読み、筆者のメッセージについて考え、考えたことを友達と伝え合う。そして、「春に」を読み、作品からどのようなことを感じたり考えたりしたかを確かめる。そうして、二つの作品を読んで考えたことを文章にまとめ、6年になったときと、卒業を目前に控えた今での考え方や学習についての自分の考えの変化を話し合う。</p>

2・3年 複式年間指導計画案

2年と3年とでは授業時数が異なるため、2年が国語を行っているとき、3年が他教科を行う場合がある。

*…複式学級の特性に応じて配慮が必要となる場合の留意事項

I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い

II…同領域異教材であるが、一部一斉にを行う扱い

III…同領域同教材（2・3年同時に行い、「わたり」を行わない扱い）

IV…異領域異教材など（I、II、IIIのどれにも当てはまらない扱い）

月	単元名・教材名 2年	配当時数	単元名・教材名 3年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
	すきなこと、なあに 話聞	2	何をしているのかな 話聞	2	III	<p>国語学習のスタートとして、わたりを行わず、2・3年生がいっしょに学習をする。第1時は、2年「すきなこと、なあに」を取り扱う。教師の自己紹介を聞き、単元のねらいや見通しを持たせる。そして、名前と好きなことを伝え合う活動を設定する。このとき、女兒の話し始めの言葉が、二人の話を続ける効果を持っていることを取り上げる。第2時は、3年「何をしているのかな」の教科書の対話を読む。そして、二人一組で絵や写真を見て、想像したことについて対話をし、対話をして気付いたことを話し合う。第1時で見つけた話をつなぐ言葉について気付かせるようにする。</p> <p>第3時は、2年の「いくつあつめられるかな」を取り扱う。経験したことの中から友達に伝えたい出来事をメモに書き出して集め、伝えたいことを明確にすることができるようになることをねらいとして学習を行う。友達に伝えたい出来事をメモに書き出して見せ合い、気付いたことを伝え合うだけでなく、メモの良さにも気付かせるようにしたい。第4時は、3年の「くらべてみよう」を取り扱う。おやつのおいところを表で整理して、学習の見通しを立てる。そして、表を見ながら話し合いを行い、実際に表を作成して、気付いたことを伝え合う活動を行う。</p> <p>このように、国語教室開きとして、対話すること、さまざまな情報を分類したり、表にまとめたりして整理する学習活動を行う。</p>
	いくつあつめられるかな 書	2	くらべてみよう 書	2		
4	○お話を音読しよう 読 風のゆうびんやさん	10	○物語を音読しよう 読 すいせんのラッパ	8	I	<p>2年は、「風のゆうびんやさん」を学習材として、物語の内容の大体を捉え、人物の声を具体的に想像して物語を音読することができることをねらいとして学習する。まず、題名からどんな物語か想像して学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。本文を読み、人物の行動や場面を捉え、捉えたことを基に人物の声を思い浮かべて音読するようにする。どんなことに気を付けて音読したかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめるようにしたい。最後に、学んだことを生かして、3年生に音読を聞いてもらう場を設定する。</p> <p>3年は、場面の様子を思い浮かべて物語を音読することをねらいとする。すいせんのラッパの音や、人物の様子を思い浮かべながら音読をし、最後は音読したい場面を決めて、音読をする。その際、身に付けた「言葉の力」がどんな場面に役立つかを考え、これからの学習に生かそうという意識を高める。授業の最後には、2・3年いっしょに音読発表会を行い、互いに評価させる活動を行ってもよい。</p> <p>図書館の利用については、学校図書館を利用して読書に親しむこと、図書館の利用の仕方や置かれている本について理解することをねらいに、2・3年生いっしょに学習を行う。これまでの図書館の利用の仕方について話し合い、図書館のどこにどのような本が置かれているか確かめる。その後、本が内容によって分類・配架されていることを理解し、実際に図書館のどの本棚にどのような種類の本が置かれているか確かめたり、ある題材に関係する本をさまざまな棚から探し出すことができるようにする。</p>
	・こくごのノートのつくりかた		・国語のノートの作り方		III	
	としょかんへ行こう 読書	2	図書館へ行こう 読書	2		
	かん字の書き方 言葉	3	国語じてんの使い方 言葉	3	I	<p>2年は、漢字の筆順と画数について理解することがねらいである。既習の漢字を使って筆順と画数を確かめ、漢字を正しく書く練習をする。</p> <p>3年は、国語辞典の仕組みや使い方を理解することができるとをねらいとする。国語辞典を使ってさまざまな語を調べるという学習課題を確かめ、国語辞典の仕組みと引き方を理解する。そして、国語辞典の語の配列を知って、実際に辞典を引きながら、使い方に慣れていく。また、活用のある語の見出し語の形を知り、国語辞典を使って、文脈に合った表記や意味を調べ、国語辞典の必要性を確認する。ここでは、3年生がサポートしながら2年生に国語辞典で引いた漢字の問題（読み、意味）を出すという学習活動を設定してもよい。</p>
	○たんぼぼのひみつを見つけよう 読 たんぼぼ	10	○文章を読んで感そうをつたえ合おう 読 自然のかくし絵	10	I	<p>2年は、順序を考えながら文章の内容の大体を捉え、読んで分かったことや考えたことを伝え合うことができることをねらいとして学習を行う。まず、たんぼぼについて知っていることを出し合い、学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。「たんぼぼ」を読み、たんぼぼのひみつを見つける。見つけたひみつの中から三つを選び、順序よく文章にまとめて伝え合う。説明の順序をどのように確かめたかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>3年は、段落ごとに文章の内容を捉えることをねらいとして学習する。「だん落」という用語を理解し、段落ごとの内容を読み取ってまとめ、段落ごとに中心文を見つけ、それぞれの段落の文章の内容を捉えていく。そして、読み取ったことを基にして、感想を伝え合う。</p>
	こんなことをしているよ 書 ・丸(。)、点(、)、かぎ(「」)	8	漢字の表す意味 言葉	2	I	<p>2年は「こんなことをしているよ」を使って、経験したことを分かりやすく伝えるために簡単な構成を考えて文章を書くことをねらいとする。学習課題を明確にし、学習の見通しを持った後、家でしていることを振り返りながら、文章に書く事柄を考える。教科書の例文を読んだり、友達と話し合ったりしながら、組み立てを考えて文章を書く。また、2年生教科書のp.48-49の「丸(。)、点(、)、かぎ(「」)」を参考にさせることを合わせて行う。最後に、友達と互いの文章のよいところを伝え合うなどして単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>3年は「漢字の表す意味」について学習する。ねらいは、複数の意味を持つ漢字があることを知り、その意味の違いについて理解することである。漢字には複数の意味を持つものがあり、その意味や使い方の違いを知るという学習課題を確かめ、一つの漢字が持っている複数の意味の違いを理解する。学習の最後には、2・3年でそれぞれ習っている漢字の読みについてのクイズを行って学習の定着を図る活動を取り入れてもよい。</p>
5	外国の小学校について聞こう 話聞	4	メモを取りながら話を聞こう 話聞	4	II	<p>2年の「外国の小学校について聞こう」と3年「メモを取りながら話を聞こう」を組み合わせた単元を構想する。</p> <p>まず、2年の教科書p.50-51を読み、外国の小学校のことを聞くという活動の目的をつかませる。そして、2年生には、「自分が聞きたいことを落とさないように集中して話を聞くことができること」、3年生には「必要なことを記録しながら聞くこと」ができるようにという課題を示す。実際に聞く活動では、研究編付属ディスクやウェブサイトに掲載されている音声を利用する。2年のカンボジアの小学校の様子を聞き、話を聞くときに気を付けたことや気付いたことを確かめる。聞いた後、2年生は、聞いたことで、自分が知っていることとの共通点や相違点を整理するワークシートを書く。3年生は、「郵便局の仕事」を聞き、話し手が伝えたいことの内容を捉えるために、話の組み立て方を意識していることをつかませる。特に最初の「…三つお話します。一つ目は…」という言葉の使い方に着目できるようにする。そうして、単元の最後に「話を聞くときには」ということで学んだことを発表し合い、単元を終える。</p>
	・こそあど言葉					
	かんさつしたことを書こう 書	6	調べて書こう、わたしのレポート 書	10	I	<p>*2年生は、「名前を見てちょうだい」の前に、「かんさつしたことを書こう」「かたかなで書くことば」を先に行う。こうすることで、その後に行う、物語単元を2・3年で揃えて行うことができる。また、前の単元の外国の「外国の小学校について聞こう」でのカタカナ表記と関連させることもできる。</p> <p>〔2年〕 かんさつしたことを書こう 身の回りの植物の様子を観察して気付いたことをメモに集め、観察して気付いたことを記録する文章を書くことをねらいとして学習する。生活科の学習と関連させ、身の回りの植物の様子を観察して気付いたことを記録する文章を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。様子を伝えるためにはどんなことに着目して観察すればよいかを考え、植物を観察して気付いたことをメモに書く。そして、メモを基に「かんさつカード」を書く。最後に、どのようなことに気を付けて観察し、メモやカードを書いたかを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>〔2年〕 かたかなで書くことば 片仮名で書く言葉について理解し、文や文章の中で正しく使うことができることをねらいとして学習を行う。まず、片仮名で書く言葉について学習することを確かめ、片仮名の言葉を集める。片仮名で書く言葉の種類を理解し、片仮名を正しく書く練習をする。さらに、集めた言葉で短文を作る。学習を振り返り、片仮名で書く言葉を確認する。</p> <p>〔3年〕 メモを取りながら話を聞こう ねらいは、身の回りのことの中から知りたいことに応じた方法で調べ、書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えることである。まず、目的を理解し、学習の見通しを立てる。次に、身の回りで不思議に思うことや気になることを集め、調べることを決める。そして、知りたいことに応じた方法で調べ、レポートの組み立てを考える。最後にレポートを書いて、友達と読み合う。</p>
	かたかなで書くことば 言葉	3	・メモの取り方			

6	○声やうごきであらわそう 名前を見てちょうだい 読	12	○「あらすじカード」を作ろう はりねずみと金貨 読	10	I	<p>2年は、物語の内容の大体を捉え、人物の行動を具体的に想像して、物語を音読や動作で表すことをねらいとして学習を行う。題名や挿絵から物語について想像を広げ、学習課題を明確にして、学習の見通しを持つ。「名前を見てちょうだい」を読み、場面ごとに登場人物の様子を確かめる。確かめたことを基に、登場人物の様子を音読や動作で表現する。その際、3年生にも聞いてもらい、感想を発表してもらう。最後に、どんなことに気を付けて音読や動作で表現したかを確かめるとともに、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>3年は、登場人物の行動や気持ち、起こった出来事などについて、叙述を基に捉えることをねらいとする。まず、「はりねずみと金貨」の登場人物と、起こった出来事を確かめる。場面ごとに起こった出来事をまとめ、最後に「あらすじカード」を作る。ここでは、場面ごとの挿絵や文章を並び替える活動を行うことで、話の大体の内容を捉える。また、中心人物の変化を捉えるために、「最初はAだったのに、Bによって最後はCになった」という形を与えることで、自分たちで活動を進めることができるよう支援する。</p>
	ことばで絵をつたえよう 話聞	5	ローマ字① 言葉	3	I	<p>2年は、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、絵の描き方を説明することができることをねらいとしている。話す事柄の順序を考えて絵の描き方を説明するという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教科書 p.79 の「石川さんのせつめい」を聞いて、言葉で絵を説明するときに気を付けることについて考える。説明する絵を決めたら、説明の仕方を考える。描き方を説明したり、説明を聞いて絵を描いたりする。互いの説明を聞いた後、分かりやすかった点や違った点を伝え合う。最後に、相手に分かりやすく説明するときに気を付けたことを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめて、実際の説明の場で生かせるようにする。</p> <p>3年は、ローマ字で書かれた簡単な単語を読み、ローマ字を使って単語を書くことをねらいとする。簡単な単語をローマ字で読み書きするという学習課題を確かめ、ローマ字の表記の原則を理解する。そして、ローマ字を書く際に気を付ける点を確認し、読んだり書いたりする。身の回りにあるものや自分の名前などをローマ字で書き表したりすることで、ローマ字の定着を図る。</p>
			慣用句を使おう 伝統	3		<p>3年は、慣用句について知り、意味や使い方を調べて、自分の表現の中で使うことをねらいとする。国語辞典で慣用句の意味や用例を調べる。冊子を作って、2年生に見せる場を設定してもよい。</p>
7	○文しょうのちがいを考えよう サツマイモのそだて方 読	12	○書き手のくふうを考えよう 「ほけんだより」を読みくらべよう 読	10	I	<p>2年は、二つの文章に書かれている事柄や説明の中で重要な語や文などを考え、二つの文章を読み比べて分かったことや考えたことを伝え合うことができるようになることがねらいである。(生活科の野菜を育てる活動と関連させて学習するならば、時期を調整して取り組むことも考えられる。)教科書の二つの文章を読み比べて、文章の違いを考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。サツマイモの育て方について書かれた二つの文章を読む。二つの文章の説明されている事柄や順序、説明の仕方などの共通点や相違点を見つけ、説明の仕方の違いを考える。最後に、二つの文章の説明の仕方の違いを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>3年は、二つの「ほけんだより」を読み比べて、書き手の目的や意図に照らして文章の工夫や効果を読み取ることをねらいとする。まず、教科書の二つの文章を読み比べて、どちらを「ほけんだより」に選ぶか考えるという学習課題を確かめ、学習の見通しを立てる。次に、教科書 p.94～95, p.96～97 の二つの文章を読み比べ、それぞれの文章における書き手の目的や意図に応じた表現の工夫や効果を考える。そして、二つの文章における図や表、「みなさんへのアドバイス」などを読み取り、文章との関係を考えたり、有無の効果を考えたりする。最後に、二つの「ほけんだより」の表現の工夫によって生まれる読み手の感じ方を考えて、理由を明確にノートに書いて「ほけんだより」を選択する。</p> <p>ここでは、二つのものを比べる際に、同じところや違うところに着目させて、ペンで囲ませたり、簡条書きで書かせたりする。このように、スモールステップで学習を進めていくことで、自分たちで学習を進めていくことができるようするとよい。</p>
	言いつたえられているお話を知ろう 伝統	6			I または III	<p>* 2・3年生いっしょに行う活動とすることが望ましいが、時間の都合上、2年だけの学習としてもよい。</p> <p>神話や伝承の読み聞かせを聞き、内容や感想などを伝え合ったり演じたりして、感じたことや分かったことを共有することをねらいにして学習に取り組む。神話や伝承の読み聞かせを聞き、感じたことや分かったことを共有するという単元の学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。まず、「だいだらぼうのお話」の読み聞かせを聞き、伝承について興味を高める。「やまたのおろちのお話」や「いなばの白うさぎのお話」の読み聞かせを聞き、神話について興味を高める。その後、地域の民話や、神話・伝承について調べて読んでみる。さらに、神話や伝承などの本から好きなところを見つけて声に出して読み、感じたことや分かったことを伝え合う。</p>
	本は友だち 読	3 (-1)	本は友だち 読	3 (+1)	III	<p>* 同単元とするために2年は1時間減、3年生は1時間増として取り扱う。</p> <p>読書に興味を持ち、楽しんで本を選んだり読んだりすることや、自分の興味に応じた本を選んで読むことをねらいとする。読みたい本を探して読むという単元の学習課題を確かめ、読書体験文の読み聞かせを聞く。教科書に紹介されている本などを手がかりにして、読みたい本を探して読む。2・3年ともに、夏休みの読書へつなげる。</p>
9	○しを読もう いろんなおとのあめ 空にぐうんと手をのばせ 読	3	○詩を読もう 紙ひこうき 夕日がせなかをおしてくる 読	2	II	<p>2年は、語のまとまりや言葉の響き、リズムなどに気を付けて楽しみながら音読することをねらいとして学習する。最後には、「いろんなおとのあめ」「空にぐうんと手をのばせ」のいずれか好きな詩を選び、音読を発表して感想を伝え合う場を設定する。</p> <p>3年は、場面の様子や人物の気持ちなどを具体的に想像することをねらいとする。まず、詩を音読し、想像したことや気づいたことを発表する。そして、それぞれの詩について想像を広げながら、グループで工夫して詩を音読する。</p> <p>ここでは、最後に2・3年合同で音読発表会を開き、互いの音読を聞き合い感想を伝え合う。</p>
	はんたいのいみのことば 言葉	2			I (2年のみ)	<p>* 2年だけが行う。</p> <p>対義語に関心を持ち、言葉を集めたり分類したりすることができることをねらいとしている。まず、反対の意味を表す言葉について確かめ、知っている言葉を挙げる。次に、教科書の練習題を行ったり、身の回りから反対の意味を表す言葉を集めて短文を作ったりする。</p>
	うれしくなることばをあつめよう ・生活の中のことば 話聞	8	グループの合い言葉をきめよう ・生活の中の言葉 話聞	8 (+1)	III	<p>* 3年は2年の学習とそろえるために1時間増やし、8時間扱いで行う。</p> <p>2・3年で「友だちとなかよくなる話し合いをしよう」という単元を作る。2年のねらいは、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぎながら、尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合うことができることである。3年のねらいは、話し合いの目的を理解して、司会の役割や話し合いの進め方を意識しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることである。</p> <p>まず、周りの人に言葉をかけられてうれしくなった経験を振り返り、学習課題を明確にして学習の見通しを持つ。学級全体でうれしかった言葉を思い出して話し合い、どのようにして話をつなぐとよいかを考える。考えたことに気を付けながらグループで話し合い、うれしくなる言葉を集める。</p> <p>その後、「クラスの合言葉を決めよう」という議題で、運動会や音楽会など、クラスで取り組む行事にどのように臨むのかの合い言葉について考え、自分の意見をカードに書き出す。そして、話し合いの進め方を確かめ、グループで司会を立てて話し合う。</p>
○気持ちを音読であらわそう ニャーゴ 読	12	○人物につたえたいことをまとめよう サーカスのライオン 読	10	I	<p>2年は、人物の行動や気持ちを具体的に想像し、想像したことを音読で表すことができることをねらいとして学習を行う。題名や挿絵から物語について想像を広げるとともに、「集会で紙芝居(読み聞かせ)を発表しよう」などのような、音読の目的意識や相手意識を持たせるような学習課題を設定する。「ニャーゴ」を読み、物語の中で起こった出来事を場面ごとに確かめる。そして、場面ごとに人物の気持ちを想像し、想像したことを音読で表すようにする。互いに聞き合い、人物のどのような気持ちをそのような声で表したかを確かめ、単元の学習を振り返る。最後に、集会などで紙芝居(読み聞かせ)をする。</p> <p>3年は、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、物語の中心人物について考えることをねらいとする。まず、単元の学習の見通しを立てる。次に、「サーカスのライオン」の中心人物がどのような人物かを考える。そして、中心人物に伝えたいことを文章にまとめる。ここでは、まず中心人物は誰なのかを確認する。中心人物がじんざであると確認できたら、場面ごとにじんざの行動や様子から、どのような人物だったのかをまとめる。</p> <p>3年は、学習を終えた後、2年の紙芝居づくりや音読発表に参加することもよいと考える。</p>	

9	にたいみのことば 言葉 ・ことばあつめ	3	くわしく表す言葉 言葉 ・ことばあつめ	3	I 2年は、同義語や類義語について理解することをねらいとして学習を行う。まず、同義語や類義語について確かめるという学習課題をつかむ。教科書を読み、ほかの似た意味の言葉を集める。次に、教科書の練習題を見ながら、似ているところと違うところについて考える。最後に学習を振り返り、言葉を選んで文を作るようにする。 3年は、様子を詳しく表す言葉を知り、文中の修飾・被修飾の関係をとらえることをねらいとする。まず、様子を詳しく表す言葉について知るとい学習課題を確かめ、その働きを理解する。そして、様子を詳しく表す言葉と、それが係る言葉との関係を理解し、文の中で様子を表す言葉を使う。最後に、学習を振り返り、様子を表す言葉の働きについて理解したことを確かめる。ここでは、主語や述語、修飾語などに分けたカードを動かしながら、文を作ったり、様子を表す言葉集めを行ったりする。
10	絵を見てお話を書こう 書	10	想ぞうを広げて物語を書こう 書	8	I 2年は、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して、簡単な物語を書くことをねらいとして学習を行う。絵から想像を広げてつながりを考えて物語を書くという単元の学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。まず、①②④の絵を見るとともに物語を読み、登場人物像や場面ごとの様子について分かったことや想像できることを話し合う。①②④の情報を基に、③の場面ではどんな出来事が起こったのか考えて物語を書く。書いた物語の発表会を開き、楽しいと思ったところやおもしろいと思ったところを伝え合う。発表会には、3年生にも参加してもらい、感想を聞く。最後に、どのようなことに気を付けてつながりのある物語を書いたかを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。 3年は、物語の設定を考えて書く内容や中心を明確にし、段落相互の関係に注意して、文章の構成を考えることをねらいとする。まず、①②④の絵を見て、起こった出来事や「物語の設定」について考えたことや想像したことを話し合う。そして、①②④の情報を基に③の場面ではどんな出来事が起こったのか考え、「物語の設定」メモやあらすじを基に物語を書く。最後に、書いた物語の発表会を開き、楽しいと思ったところやおもしろいと思ったところを伝え合う。ここでは、「物語の設定」をしっかり押さえる。今までの物語の学習で取り組んできた「いつ・どこで・だれが」や、登場人物の性格などをしっかり設定しておくことで、筋の通った物語を書くことができる。発表会では2年生にも参加してもらい、感想を聞いて、単元を締めくくる。
10	○どうぶつのひみつをさぐる 読 ビーバーの大工事 ・本でしらべよう	15	○パラリンピックについて調べよう パラリンピックが目指すもの ・目次やさくいんを活用しよう	12	I 2年は、動物について書かれた本や文章などを読み、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、分かったことなどを紹介することができることをねらいとして学習を行う。動物について書かれた本や文章などを読み、分かったことを紹介するという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。書かれている内容と順序に気を付けて「ビーバーの大工事」を読む。次に、ビーバーや他の動物について調べることができることを考える。その後、動物に関する本を読んで知りたいことを調べ、調べたことをまとめて紹介する。その際、3年生にも参加してもらい、感想を聞く。最後に、知りたいことをどうやって本で調べたかを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。 3年は、目的を意識して、中心となる語や文を見つけながら文章を読み、書かれていることを要約することをねらいとする。まず、「パラリンピックが目指すもの」を読み、調べることを考える。そして、パラリンピックに関する本や資料を読み、調べたことをリーフレットにまとめて交流する。パラリンピックについて知っている児童が少なければ、事前にパラリンピックの映像や写真などを見せて、イメージを持たせる。また、実際に教師が作成したリーフレットをモデルとして紹介することで、児童に見通しを持たせる。できあがったリーフレットを2年生に紹介する活動を設けることも考えられる。
	主語とじゅつ語 言葉	3	ローマ字② 言葉	2	I 2年は、主語と述語の働きを理解し、適切な係り受けの関係に気付くことをねらいとする。主語と述語がどのようなものであるかを押さえ、学習課題を明確にする。短い文を作り、主語と述語の関係を確かめる。さらに、さまざまな文を使って、主語と述語の関係を確かめる。最後に、主語と述語の関係について、これからの学習に生かしていく点を押さえ、学習を振り返る。 3年のねらいは、ローマ字の読み書きを確かめ、コンピューターでの入力に活用することである。まず、ローマ字の表記について確かめる。そして、コンピューターの日本語入力にローマ字を活用できることを理解する。実際にコンピューターでローマ字を使って文を作るなどの活動を行ってもよい。
	たからものをしょうかいしよう 話聞	7	話したいいな、わたしのたしのすきな時間 話聞	7 (+1)	II *2年と3年が同単元で行うように、3年の学習時間を1時間増やす。2年は、話す・聞くの同単元を設定するため、「あそび方をせつ明しよう」と順序を入れ替えて行う。 2年は、話す事柄の順序を考えて、紹介したいことが聞き手に伝わるように話すことをねらいとして学習する。3年は、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選び、組み立てを考えて話すことをねらいとする。 2年は、自分の宝物を紹介する活動に取り組み、「はじめ・中・おわりの組み立てで話す」「声の大きさ・速さを考えて話す」という学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。話の組み立てに気を付けて、みんなの前で話すことを考える。それから、二人組で話す練習をして、よかった点や分かりやすかった点を伝え合い、再度練習をする。 3年は、「すきな時間」という話題で、話す内容を決めて、材料を書き出す。次に、材料の中から話を中心に選んで組み立てる。そして、話す練習をする。そして、練習したことを基に、声の大きさや話す速さに気を付けて、2・3年生の前で話す。どんなことに気を付けて話したかを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。
11	あそび方をせつ明しよう 書	7	案内の手紙を書こう 書 ・あて名の書き方	5	I *書くの同単元を設定するため、2年は、「たからものをしょうかいしよう」と順序を入れ替えて行う。 2年は、あそび方を説明する文章を書き、読み返したり友達と読み合ったりして、間違いを正したり語と語や文と文との続き方を確かめることができることをねらいとして学習を行う。生活科のおもちゃを作って遊ぶ活動と関連付け、手作りおもちゃの遊び方を説明する文章を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。まず、手作りおもちゃの遊び方を伝えるには、どんなことを、どのような順序で説明すればよいかを考える。次に、手作りおもちゃの遊び方を説明する文章を書く。書いた文章を読み返し、分かりやすく書けているか確かめる。友だちと文章を読み合い、分かりやすく書けているか確かめる。最後に、分かりやすい文章を書くために気を付けたことを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。 3年の「案内の手紙を書こう」のねらいは、相手に伝える必要があることを落とさずに書くとともに、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることである。まず、大事なことを落とさずに案内の手紙を書くという学習課題を確かめ、単元の学習の見通しを立てる。次に、案内の手紙に必要な事柄と手紙の構成を考える。そして、下書きをし、清書する。最後に、書いた手紙を友達と読み合い、よく書けているところや分かりやすいところを中心に感想を伝え合う。
	なかまになることば 言葉 ・ことばあつめ	3	漢字の読み方 言葉 ・ことばあつめ	3	I 2年は、仲間になる言葉に関心を持ち、言葉を集めたり分類したりすることができることをねらいとする。仲間になる言葉とはどのようなものかを押さえ、学習課題を明確にする。教科や色、形など、身の回りの言葉から仲間になる言葉を集めて分類する。最後に、仲間になる言葉を使って文を作り、学習を振り返る。 3年は、漢字の音訓や送り仮名について理解することをねらいとする。まず、音訓や送り仮名に注意して漢字を正しく使うという学習課題を確かめる。そして、漢字の音と訓、送り仮名について理解する。ここでは、今まで学習した漢字の音読み・訓読みについて調べる活動を行ってもよい。文節ごとに区切ったカードを用意し、並び替えたり置き換えたりするなど、児童が自分たちでカードを操作して活動できるようにする。
	同じところ、ちがうところ 書	5		I (2年のみ)	*2年だけが行う。 二つの物を比べて同じところと違うところを見付け、それらが明確になるように文章に書き表すことをねらいとして学習する。二つの物を比較して同じところと違うところを見付け、分かったことを文章にするという単元の学習課題を確かめ、学習の見通しを持つ。初めに、比べる物と比べる観点を決めて、二つの物を比べる。次に、比べて分かったことを整理して文章を書く。最後に、観点を決めて比べたり、気付いたことを整理して書いたりすることの良さを伝え合いながら単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。

12	○読んだかんそうをつたえ合おう お手紙 読	12	○想ぞうしたことをつたえ合おう モチモチの木 読	12	I	<p>2年は、「お手紙」を読み、人物の気持ちについて想像を広げ、物語を読んだ感想を深めることをねらいとして学習を行う。物語を読んで感想を伝え合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。「お手紙」を読み、物語の中で起こった出来事確かめるとともに、人物の気持ちを自分の気持ちと比べて想像する。想像したことを基に、物語を読んだ感想を伝え合う。感想を伝え合う活動は、去年学習した3年生といっしょに行う。最後に、自らの感想の変化を確かめるとともに、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>3年は、「モチモチの木」を読んで中心人物の性格を想像し、感じたことや考えたことを共有することをねらいとする。まず、単元の学習の見通しを立てる。次に、豆太の性格を想像し、想像したことを友達と伝え合う。豆太の性格を想像する際には、場面ごとの豆太の行動や会話、様子から読み取っていく。場面ごとに、○○な豆太という見出しを考えさせることで、見通しを持って、自分たちで学習を進めることができるようにしたい。</p>
	「ありがとう」をつたえよう 書	5	自分の考えをつたえよう 書	8	I	<p>2年は、感謝の気持ちを相手に伝えるために必要なことを考え、言葉の使い方や間違いに気を付けて手紙を書くことをねらいとして学習する。「ありがとう」の気持ちを伝えたい人に手紙を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。「ありがとう」の気持ちが伝わるように手紙を書き、読み返す。さらに、書いた手紙を声に出して読み返し、宛名や自分の名前、感謝していることを具体的に書いているか、文末表現や文字の間違い、言葉の使い方に誤りがないかを確かめる。最後に、気持ちを伝えるためにどのようなことを手紙に書いたかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>3年は、話題についての自分の考えが読み手に伝わるように、自分の考えとそれを支える理由を明らかにして文章を書くことをねらいとする。まず、書きたい話題を決め、自分の立場を決める。次に、考えを支える理由を整理し、自分の考えと理由を効果的に伝えるための構成を考える。最後に、読み手が分かりやすいように工夫して、文章を書く。文章を書く際には、「はじめ・中・終わり」の構成を意識して、考えと理由を書かせる。</p> <p>3年が、自分の考えを書くことを行っている間に、2年は、漢字の送り仮名の役割を理解し、漢字を正しく書いたり読んだりする学習を行う。まず、送り仮名の意味と役割を確かめ、学習課題を明確にする。教科書の例文の漢字の送り仮名を確かめる。次に、既習の漢字から、送り仮名が複数あるものを確かめ、短文を作る。学習を振り返り、これからの学習に生かしていける点を押さえる。</p>
	おくりがなに気をつけよう 言葉	3				
	どんな本を読んだかな 読	6	本をしょうかいしよう 読	6 (+2)	III	<p>* 2・3年同単元同内容で扱う。そのため、3年の学習時間を2時間増やして実施する。</p> <p>まず、これまでに読んだ本について友達と伝え合い、おもしろかったところを友達と共有することや、本を選び、本を読んで感じたことや考えたことを共有することがねらいである。まず、これまでに読んだ本を振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。読んだ本を思い出し、学級のみんなに伝える本を一冊決める。2年の教科書 p.73 の「石川さんのカード」を参考に、紹介する項目を確認し、カードを書く。そして、3年の教科書 p.69 を参考にして本を紹介する。互いに伝え合った本を共有し、今後の読書につなげる。最後に、友達を読んだ本の中でどんな本を読みたくなったかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p>

* 3学期は、2年と3年の同単元の配列があまりないので、3年の単元の配列に合わせて、2年の学習順序を入れ替えるように計画した。3年では一部、「漢字の組み立てと意味」「ゆうすげ村の小さな旅館」の入れ替えを行った。

1	おばあちゃんに聞いたよ 伝統	6	俳句に親しむ 伝統	3	II	<p>2年だけで、「十二支」「小の月」について知り、音読する。次に、「いろは歌」「いろはかるた」「郷土かるた」について知る。その後、2年生は、かるた作りを行う。その間、3年は、易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりする。五七五の音数や季語など、俳句の決まりについて知る。次に、教科書 p.75～77 の俳句を聞いて声に出し、暗唱したり短冊に書いたりして親しむ。そして、好きな俳句を選び、どこが気に入ったのかを短い文章にまとめる。最後に、2年生の作ったかるたを3年生もいっしょに行い、単元の学習を振り返る。</p>
	この人をしょうかいします 書	10	心が動いたことを詩で表そう 書	3	I	<p>2年は、内容のまとまりが分かるように書き表し工夫して、身の回りにいる人を友達や先生に紹介する文章を書くことをねらいとして学習する。これまでの学習や生活経験を振り返り、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して紹介する文章を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。初めに、身の回りの人を振り返り、紹介する人を決める。紹介することをカードに書き出し、整理する。整理したカードを基に、言葉や文の続き方や伝えたいことのまとまりに気を付け、紹介する文章を書く。書いた文章を読み合い、気づいたことや感想を伝え合う。文章は、3年生にも読んでもらい、感想を聞く。最後に、文章を書く際に気を付けたことを確かめ、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>3年は、生活の中で心が動いたことを探して想像を広げ、そのときの心の動きが伝わるように、言葉を集めたり選んだりして、伝えたいことを明確にすることをねらいとして詩を書く学習を行う。まず、教科書 p.79 の詩を基に、詩を書くために必要なことや工夫の仕方を考える。次に、心が動いたことの中から、いちばん伝えたいことを選び、詩の題材を決め、心が動いたことをよく思い出し、詩を書く。そして、書いた詩を声に出して読み返し、推敲する。最後に、書いた詩を読み合い、表現のよさや工夫を見つけて共有する。</p> <p>3年の「言葉でつたえ合う」は、これまでの話し方や、文章の書き方を振り返り、よりよく伝える表現について考えることがねらいである。まず、伝え方で気を付けることを知る。次に、伝え方で工夫することを知る。そして、さまざまな伝え方について知る。</p>
○あなのやくわりを考えよう あなのやくわり 読	12	○世界の家のつくりについて考えよう 人をつつむ形—世界の家めぐり 読	11	I		
2	すきな場所を教えよう 話聞	8	外国のことをしょうかいしよう 話聞	10	I	<p>2年は、伝えたいことに必要な事柄を選び、自分が好きな場所のことを紹介して伝えることをねらいとして学習する。来年度の新入生に校内や地域の中で好きな場所を紹介するという学習課題を確かめ、学習の見通しを持つ。まず、好きな場所について想起して決める。次に、好きな場所のよいところが伝わるように、話すことを考え、選ぶ。声の大きさや話す速さを考えて、話す練習をする。その際、3年生にも聞いてもらい、分かりやすい話し方があるか確かめる。練習して気づいたことを生かして、新入生の前で話す。最後に、話すときに気を付けたことを生かして、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>3年は、グループで調べたことを、聞き手に伝わるように、話の組み立てを考え、話し方をくふうすることがねらいである。まず、グループごとに計画を立てて調べる。次に、調べたことを整理して、取り上げる事柄を選ぶ。そして、話の組み立てを考えて、ポスターを作り、説明の練習をする。最後にみんなの前で説明する。</p> <p>好きな場所を2年生が紹介する場、3年生が調べたことを説明する場においては、2・3年生がいっしょの活動を行うようにする。</p> <p>2年は、3年が調べ学習を行っている間に「声に出してみよう」の学習を行う。音節(拍)と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いを理解し、日本語の母音と子音の構成について気付くことができることをねらいとしている。音と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いについて考えるという学習課題を明確にする。そして、手をたたきながらいくつかの言葉を声に出して言い、音節を確かめる。教科書の例を声に出して読み、音の高さの違いに気付く。さらに、ひらがな表を見ながら、母音と子音の構成を理解する。最後に、単元で学習した三つの内容について振り返る。</p>
	声に出してみよう 言葉	3				

2	ことばを広げよう 言葉	6	漢字の組み立てと意味 言葉	2	I	<p>2年は、文や文章の内容や表現に着目し、よりよい表現について考えることをねらいとして学習する。文や文章を読み、よりよい表現について考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。初めに、動きやすことを表す言葉を探して、文を作る。次に、様子や気持ちを表す言葉を集めて、文を作る。さらに、文章を詳しくしたり分かりやすくしたりするために、言葉を考えて書き直す。最後に、単元の学習を振り返るとともに、今後のよりよい言葉の使い方について考える。また、組み合わせた言葉（複合動詞）も取り扱い、作った文の中に用いられている複合動詞に着目させ、その効果を確認させるようにする。</p> <p>3年は、漢字が部首と他の部分とによって構成されていることを理解することをねらいとする。まず、部首について知るという学習課題を確かめ、漢字の共通する部分の名称と代表的な部首の種類について知る。次に、同じ部首の漢字から意味の共通性を知る。最後に、部首について理解したことを確認し、学習を振り返る。</p>
3	○むかし話をしょうかいしよう 読 かさこじぞう	14	○物語のしかけをさがそう 読 ゆうすげ村の小さな旅館—ウサギのダイコン	12	I	<p>2年は、まず「かさこじぞう」を読み、そこで学んだことを生かして、他の昔話を読み、おもしろいと思ったところを友達と伝え合い、共有することをねらいとする。昔話を読んで感想を伝え合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。「かさこじぞう」を読み、物語の中で起こった出来事確かめる。次に、「かさこじぞう」の始めの部分と終わりの部分で変化したことについて考える。さまざまな昔話を読み、おもしろいところを見つけて紹介する。その発表は、3年生にも聞いてもらう。最後に、単元の学習を通じて分かったことや気付いたことを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。</p> <p>3年は、物語で起こった出来事を読み取り、物語の仕掛けを見つけることをねらいとする。まず、物語の内容の大体を捉え、物語の仕掛けを探す。そして、「ゆうすげ村の小さな旅館—ウサギのダイコン」と比較しながら「クマの風船」を読み、単元の学習を振り返る。ここでは、起こった出来事を読み取ることを通して、「美月さんがうさぎであるという証拠（仕掛け）を見つけよう」と児童に投げかけることで、意欲を持って学習に取り組むことができるようにする。また、自分たちで学習を進めるにあたって、〇×クイズなどを行いながら仕掛けを探す活動を行ってもよい。同時並行で、同じ作者の作品で、仕掛けのある本を読むということに取り組んでもよい。</p>
	「ことばのアルバム」を作ろう 書	7	「わたしのベストブック」を作ろう 書	7 (-1)	III	<p>* 3年は、2年の学習とそろえるために1時間減らして7時間抜いで行う。</p> <p>2・3年とも1年間を振り返って文集作りの活動をする。</p> <p>これまでに書いた文章を振り返ってよいところを見付け、1年間で最も心に残った出来事を報告する文章を書き直すことをねらいとして学習する。これまでの学習を振り返り、自分の文章の内容や表現のよいところを見付け、1年間で最も心に残った出来事を書き直すという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。まず初めに、1年間で書いた文章を読み返し、経験したことや学習したことを振り返る。その中から、家の人に伝える出来事を決め、その出来事を思い出して文章を書く。そして、互いに読み合った後、友達の文章に賞状を書き、互いの文章のよいところを伝え合う。そうして、「わたしのベストブック集」としてまとめる。その後、単元の学習を振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめる。書いた文章は学級文集としてまとめ、家の人に読んでもらう。</p>

4・5年 複式年間指導計画案

4年と5年とでは授業時数が異なるため、4年が国語を行っているとき、5年が他教科を行う場合がある。

*…複式学級の特성에応じて配慮が必要となる場合の留意事項

I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い

II…同領域異教材であるが、一部一斉にを行う扱い

III…同領域同教材（4・5年同時に行い、「わたり」を行わない扱い）

IV…異領域異教材など（I, II, IIIのどれにも当てはまらない扱い）

月	単元名・教材名 4年	配当時数	単元名・教材名 5年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
4	もしも、どうしたい 話聞	2	この言葉、あなたならどう考える 話聞	2	III	<p>国語学習のスタートとして、わたりを行わず、4・5年がいっしょに学習をする。第1時は、4年「もしも、どうしたい」の教科書の対話例を読み、話題を選んで想像したことの対話をする。その際、互いの考えの共通点や相違点に着目しながらやりとりを進める。第2時は、5年「この言葉、あなたならどう考える」の教科書の対話例を読み、話の内容が明確になるように、互いに考えを伝え合うための対話の仕方を学習する。話題となる言葉の意味を挙げ、その理由を尋ねること、また、別の意味を挙げること、そして、相手の意見に対して自分の考えを伝えることを行う。</p> <p>第3時は、4年「グループにまとめて整理しよう」を用い、教科書の整理した例を見て、学習課題を確かめる。そして、1年間がんばりたいことを書き出して、見出しを付けて整理する。他の話題について思いつくことがあれば書き出して、分類して整理する。第4時は、5年の「事実と考えを区別しよう」の教科書 p.12 のグラフから分かる事実と考えたことを書いて、事実と考えを区別するという学習課題を確かめ、書いたものを見せ合って、気付いたことを話し合う。それから、教科書 p.13 のグラフから分かる事実と考えたことを文章で表に整理し、学習したことをまとめる。</p> <p>このように、対話すること、さまざまな情報を分類したり、表にまとめたりして整理すること、事実と考えについて区別することを国語科で学習するという国語教室開きを行う。</p>
	グループにまとめて整理しよう 書	2	事実と考えを区別しよう 書	2		
	○想像したことを音読で表そう 読 こわれた千の楽器 ・国語のノートの作り方	8	○人物の思いを音読で伝えよう 読 だいじょうぶ だいじょうぶ ・国語のノートの作り方	4		
5	図書館へ行こう 読書	2	図書館へ行こう 読書	2	III	<p>図書館の利用については、本が内容によって分類・配架されていることを理解し、実際に図書館のどの本棚にどのような種類の本が置かれているか確かめたり、ある題材に関係する本をさまざまな棚から探したりすることができるようにする。図書館の利用については、4年、5年の両方の教科書に記されている「日本十進分類法」について知り、本を探すときに役立てることができるようにする。</p>
	○説明のまとまりを見つけよう 読 ヤドカリとイソギンチャク	10	○筆者の伝えたいことをまとめよう 読 動物たちが教えてくれる海の中のくらし	7	I	<p>4年は、段落相互の関係について理解し、文章の構成を捉えることをねらいとしている。まず、これまでの学習を振り返って、文章のまとまりを捉えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、教材文を読み文章構成を捉える。そして、ヤドカリとイソギンチャクの関係について、説明のまとまりに着目しながら読み取り、図や表で表したり、筆者の説明の仕方について考えたりする学習活動を行う。また、4年はヤドカリやイソギンチャクの動きを動作化させながら、それぞれの関係について読み取りを行い、図を使って関係を表す。</p> <p>5年は、文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、まとめることをねらいとして学習する。まず、文章の構成を捉えて要旨をまとめるという学習課題を知り、文章に書かれている内容について、叙述を基に三つの実験・観察の内容を押さえる。特に専門用語が多いので言葉の意味を確認しながら読む。それから結論部分を中心に文章の要旨をまとめ、考えたことを伝え合う。</p> <p>教材文が長文であることから、児童の実態に応じ、序論・本論・結論は教師から示すことや、要旨の一部を示すなどの配慮を行っていく。</p>
	漢字辞典の使い方 言葉	2	漢字の成り立ち 言葉	2	I	<p>* 5年の「漢字の成り立ち」とそろえるために、4年は学習順を入れ替え、「漢字辞典の使い方」を「ヤドカリとイソギンチャク」の後に行う。</p> <p>4年は、漢字辞典の仕組みと三種類の索引の使い方を知り、漢字の学習に活用することができることをねらいとする。まず、漢字辞典の仕組みを知って漢字を調べるという学習課題を確かめる。そして、漢字辞典の仕組みを知り、部首索引や総画索引、音訓索引を使って漢字を探す方法を理解し、三つの索引の使い分けについて考えることを学習する。</p> <p>5年は、漢字の四つの成り立ちを理解することをねらいとして学習する。教科書を参考に漢字の四種類の成り立ちを知り、象形文字と指事文字との区別、会意文字と形声文字との区別を考える。その際、教科書の練習題に取り組んだり、他の漢字について漢字辞典を利用したりする。</p> <p>漢字や熟語のカードを分類する活動を取り入れることで「わたり」を成立させる配慮をする。また、5年がサポートしながら4年に漢字辞典の使い方を教えるという学習活動を行っていく。</p>
たしかめながら話を聞こう 話聞 ・メモの取り方	5	知りたいことを聞き出そう 話聞	5 (+1)	III	<p>* 4年の「たしかめながら話を聞こう」と5年の「知りたいことを聞き出そう」とをいっしょに行うために、5年は指導時間を一時間増で行う。</p> <p>4・5年が6年生に「委員会の仕事」をインタビューするという活動をいっしょに行う。目標は、4年は、聞きたいことを中心を考えて聞き、必要なことをよく知るために質問をして、自分の考えを持つことである。一方、5年は自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることである。まず、4・5年いっしょに活動を始める。インタビュー（質問）の話題、インタビューをするときに気を付けることを確かめる。そして、同じ委員会に所属する6年生に、委員会活動で役に立つことを聞くというめあてを確認する。そして、4・5年で同じ委員会で班を作り、話を聞く意図や目的を確かめ、インタビューで聞きたいことを考えて整理する。整理ができれば、4・5年生そろって、昼休みや放課後の時間を使って、6年生にインタビューを行う。それから、インタビューで知ったことを基に、自分はどのように委員会活動を行うか、自分の考えをまとめる。そうして、4年は、聞きたいことを中心と考えて聞くことができたか、必要なことをよく知るために質問をすることができたかを振り返る。5年は、話を聞き出すためにどのようなことに気を付けて聞いたかを振り返り、身に付けた「言葉の力」がどんな場面に役立つかを考え、これからの学習や生活に生かそうという意識を高める。</p> <p>4年は、聞くことを中心と考えて質問すること、5年は聞きたいことを明確にすることを中心として、目標を変えながら話す聞く活動を行う。</p>	
みんなで新聞を作ろう 書	9 (-1)	環境問題について報告しよう 書	9 (+2)	III	<p>* 4年の「みんなで新聞を作ろう」と5年の「環境問題について報告しよう」とをいっしょに行うために、指導時間を4年は1時間減、5年は2時間増で行う。</p> <p>4・5年が、学級の出来事を伝える新聞をまず作り、その後、環境問題について調べたことを文章にまとめる活動に取り組む。新聞は、知らせたいことが明確に伝わるように記事を書き、見出しや割り付けを考えて、読み手の興味をひく新聞を作る。その際、記事を4年が中心に書き、資料となる写真などを5年が選ぶようにする。その後、調べたことを文章にする活動は5年が中心となり、資料を活用し、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することを学習する。</p> <p>まず、学級や学校での出来事について知らせたいことを新聞で伝えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。そして、新聞作りの計画を立てる。後は、4・5年で班を作り、計画した内容に関わることを取材して記事に表し、割り付けをし、新聞を完成させる。</p> <p>そして、新聞を作った経験を基に、5年生が中心になって、調べるテーマを決めてから、図表やグラフの読み取りに注意し、調べて分かったことを整理する。それから、資料を効果的に使うことに気を付け、調べたことを報告する文章の構成を考え、構成を基に文章を書く。出来上がった資料は、全校に掲示し、6年などから付箋を利用して資料に気づいたことを貼ってもらうような場を持つことが有効である。なお、使用した資料や、作った発表資料・ポスターは残しておき、翌年以降のモデルとして活用できるようにしておく。</p>	

6	○人物の変化をとらえよう 読 走れ	10	○山場で起こる変化について考えよう 読 世界でいちばんやかましい音	7	I	4年は、中心人物の気持ちの変化とその理由について考えて読むことをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返って、中心人物の変化を捉えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、教材文を読み、場面ごとに起きた出来事確かめて中心人物の気持ちの変化を捉える。そして、中心人物の気持ちの変化とその理由について考えたことを友達と伝え合う。中心人物であるのぶよの気持ちの変化を捉えることで、この物語の山場を押さえる。ここでは、場面ごとの挿絵や文章を並び替える活動を行うことで、話の大体の内容を捉える。また、中心人物の変化を捉えるために、「最初はAだったのに、Bによって最後はCになった」という形を与えることで、自分たちで活動を進めることができる。 5年は、物語の構成を捉えて物語の全体像を具体的に想像し、読み取ったことに基づいて自分の考えをまとめることをねらいとして学習する。まず、物語の構成を捉え、山場で起こる変化について考えるという学習課題を明確にし、「世界でいちばんやかましい音」を読み、物語の構成を捉える。それから、山場で起こる変化について考え、考えたことを友達と伝え合う。物語の山場でどのような変化が起こったと考えたかを中心にまとめ、中心人物である王子だけでなく、ガヤガヤの町の変化にも目を向ける。 物語を読む授業においては、出来事をカードにして並べ替えることや、話し合った際の友達の考えをノートに書くなどの活動を間接指導の場に取り入れることにより、学習を成立させる。
	ことわざと故事成語 伝 お願いやお礼の手紙を書こう 書 ・伝わりやすい文	4	文の組み立てをとらえよう 言葉 ・ことばあつめ	2	I	*運動会をこの時期に行う学校も増えている。4年の「お願いやお礼の手紙を書こう」の学習を、5年もいっしょに行う。 4年は、ことわざや故事成語について意味や使い方を理解して使うことをねらいとする。国語辞典でことわざや故事成語の意味や用例を調べる。 5年は、文の中での語句の係り方について理解することをねらいとして学習する。まず、教科書 p.74・75 の文例を読み、主語、述語の関係を押さえる。教科書の例文を基に、原因や理由、仮定、修飾と被修飾など、さまざまな語句の結びつき方をとらえる。そして、語句どうしの関係や接続語、指示語の使い方に注意して、練習題に取り組む。成果物を作る時間は省く。 4年はことわざや故事成語、5年は語句をカードにする準備をすることで、間接指導時の操作を中心とした活動を仕組むことができる。 その後、4・5年いっしょに、相手や目的に応じて書く事柄や言葉の使い方を考え、手紙の形式に気をつけて、お願いやお礼の手紙を書く学習を行う。まず、これまでに学習したことを振り返って、相手や目的に合わせて手紙を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、教科書の手紙例を読み、目的に合わせた内容と用語を確認する。そして、依頼文や礼状の下書きをして、身の回りの人などに、お願いやお礼の手紙を書く。
7	○表し方のちがいを考えよう 読 広告を読み比べよう	8	○書き手の意図を考えよう 読 新聞記事を読み比べよう	6	I	4年は、同じ商品の二つの広告を読み比べて、目的や意図に応じた表現の工夫や効果の違いを読み取ることをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返り、広告を読み比べて、表し方のちがいを読み取るという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、教科書 p.88・89, p.90・91 の二つの広告に書かれている言葉や写真を読み取り、表現の違いを捉える。そして、二つの広告の言葉や写真から、それぞれどんな目的や意図で、誰に向けて作られているものなのかを考える。二つの広告全体のレイアウトから受ける印象や、広告の目的や意図に応じた表現の工夫やその効果について気づいたことを出し合い、その違いをまとめる。最後に、二つの広告から読み取ったことを生かして、身の回りの広告について表現の工夫や効果を分析し、その考察を書いて、互いに読み合う。ここでは、二つのものを比べる際に、同じところや違うところに着目させて、ペンで囲ませたり、箇条書きで書かせたりする。このように、スモールステップで学習を進めていくことで、自分たちで学習を進めていけるよう支援する。 5年は、新聞記事を題材に、文章全体の構成を捉えたり文章と図表などを関係付けたりして要旨を把握し、書き手の意図について考えることをねらいとして学習する。まず、教科書 p.80～83 を読み、新聞の特徴や役割、記事の構成と写真の役割を理解する。そのうえで、p.84・85 のA社とB社の記事を読み比べ、共通点や相違点を基に書き手の意図を考えて話し合う。この時、「A社とB社の写真を入れ替えることができるか？」といった発問をすることで、写真と書き手の意図との関係に気づかせることができる。その後、各自で新聞を持ち寄り、記事と写真に合った見出しを書く活動を行う。 どちらの学年も、広告や記事を拡大した資料を提示し、共通点や相違点、自分の考えを付箋に書いて提示した資料に貼るという活動を行ってから、話し合うといった場を仕組む工夫が有効である。
	ローマ字の書き方 言葉	2	ローマ字の書き方 言葉 (4年の教材)	2	III	*5年も、4年の「ローマ字の書き方」について学習する。(追加の時間とする。児童の実態によっては5年の学習は省く。) ねらいは、ローマ字による日本語の音の表し方や二通りの書き方を理解し、ローマ字で書かれた単語を読んだり、身の回りの単語をローマ字で書いたりすることである。ローマ字について学習課題を確かめる。まず、ローマ字の書き方を確かめる。そして、書き方を確かめながら、身近なものや名前、地名をローマ字で書く。4年の取り組みに対して、5年がサポートしながら、また、振り返りながら学習を進めていく。
	本は友達 読書	2	本は友達 読書	2	III	図書館の利用について、同単元同教材で、4・5年いっしょに行う。児童の実態に応じ、読書の楽しさを知り、自分の興味に応じた本を選んで読むことをねらいとして、 ・読書体験文を読み、教科書で紹介されている本などを手がかりに、読みたい本を探して読む。 ・読んだ本を紹介し感想を書く活動や音読する活動、写す活動を行う。 また、教科書の「〇年生の本だな」から本を選んで読む。読書記録を書くことを取り入れて、読書の足跡を残す習慣を身に付けさせるよう心がける。
9	○詩を読もう 読 ふしぎ／よかったなあ	2	○詩を読もう 読 紙風船／水のこころ	2	II	4年は、詩に描かれた情景について想像を広げながら、詩を音読することをねらいとしている。まず、1時間目に「ふしぎ」を、2時間目に「よかったなあ」を扱う。情景について想像を広げながら詩を音読するという学習課題を確かめる。次に、詩を音読し、想像したことや気づいたことを発表する。そして、それぞれの詩について想像を広げながら、工夫して詩を音読する。 5年は、1時間目は「紙風船」を、2時間目に「水のこころ」を読み、詩から自分が感じたことが伝わるように工夫して音読する。 ここでは、最後に4・5年合同で音読発表会を開き、互いの音読を聞き合い感想を伝え合う。
	学校についてしょうかいすることを考えよう 話聞 ・生活の中の言葉	6	問題を解決するために話し合おう 話聞 ・生活の中の言葉	6 (+1)	III	*5年は、4年の学習とそえるため、1時間増やして6時間抜いで行う。目標は変えるが共に話し合いについて学習する。 4年は、話し合いの目的を理解して、司会者・提案者・参加者などの役割を果たしながら話し合い、結論をまとめることをねらいとする。一方、5年は、意図を明確にしながら計画的に話し合い、互いの意見を分類したり整理したりして、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることをねらいとして学習する。 まず4年教科書 p.114～115 の例と5年教科書 p.105 の例から、話し合いがまとまらない原因を探る。そうして、話し合いにおいて、ただ意見を出すだけや反論するだけではまとまった話し合いにならないことを知る。そのうえで、4年教科書 p.118 の役割を考えながら話し合うことや5年教科書 p.108 の付箋メモを利用することといった方法を学ぶ。それから、学校について紹介することか、身の回りにある問題から解決したいものを探して、議題を設定し、意図を明確にして、グループで計画的に話し合う。 全員で話し合うのではなく、話し合うグループとそれを観察するグループに分かれるようにする。そして、観察するグループは意図を明確にしているか、整理しようとしているかに着目し、互いに評価し合えるようにする。
	文の組み立てと修飾語 言葉 ・ことばあつめ	3	敬語の使い方 言葉	2	I	*4年は、学習順序を入れ替え、「一つの花」の前に「文の組み立てと修飾語」の学習を行う。 4年は、主語、述語、修飾語それぞれの働きを理解し、文の構成を捉えることをねらいとする。まず、主語、述語、修飾語の働きを理解して文の構成を捉えるという学習課題を確かめる。次に、修飾語の役割を知り、主語、述語、修飾語からできている文の構成について理解する。そして、主語、述語、修飾語からなる文の語と語の関係を理解して、文の構成を図示したり文を作ったりする。ここでは、主語や述語、修飾語などに分けたカードを動かしながら文を作ったり、様子を表す言葉集めを行ったりする。 5年は、敬語を理解することを中心とした学習を行う。まず、教科書 p.114～115 を活用して、敬語の種類や使い方を理解する。そして、敬語に書き換える練習題に取り組んだり、敬語を使った会話文を作ったりして、敬語の使い方について理解を深める。教科書に載っているような文例を利用して、「お」「ご」の尊敬語、謙譲語、丁寧語の区別、尊敬語、謙譲語の特別な言い方を学ぶ。そうして、相手や場面に応じた言葉遣いを理解し、適した言葉を選んで使うことを中心とした学習を行う。敬語の知識を得ることにとどまらず、実際に用いることで、敬語への理解を深めるようにする。

9	○物語の題名の意味を考えよう 一つの花 読	11	○物語のおもしろさを解説しよう 注文の多い料理店 読	8	I 4年は、物語の題名の意味について、物語の中の叙述と結び付けて具体的に考えることをねらいとする。まず、これまでに学習したことや読書経験を振り返って、題名の意味を考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、「一つの花」を読み、人物の気持ちの変化を想像する。そして、「一つの花」という題名の意味について考えたことを友達と伝え合う。ここでは、まず「一つの花」を初めて読んだときに題名の意味を考える。そして、物語を読みながら登場人物の気持ちや様子を、「一つの」という言葉とどのような関係があるのかを読み取っていく。授業の最後に、最初に考えた題名の意味と、今、考えている題名の意味の変化についても感じさせながら、友達と交流する。 5年は、人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりし、見つけたおもしろさを解説する文章を書くことをねらいとして学習する。まず、「注文の多い料理店」から表現の工夫を見付けて物語のおもしろさを解説する文章を書くという学習課題を知り、学習の見通しを持つ。それから、「注文の多い料理店」を読み、物語の構成を確かめ、物語をおもしろくしている表現の工夫を探す。そうして、おもしろさの秘密を解説する文章を書き、友達と読み合う。ここでは、「なぜ紳士は山猫軒に入ったのか?」「扉の言葉の意図は?」「山猫は紳士を本当に食べるつもりがあったのか?」「紳士は最後に反省したのか?」などのテーマで話し合う活動を行うことが考えられる。その時間の読み取るテーマを自分の言葉で短く書き、ホワイトボードなどを活用して自分の考えを提示し、話し合うことで、間接指導を成立させることができる。また、話し合った後、友達のことをノートに書く活動も取り入れるようにする。
10	山場のある物語を書こう 書	8	古文に親しむ 伝統	3	IV 4年は、教科書 p.142 の始まりの場面と終わりの場面の絵を見て、山場で起こる変化を想像し、構成を工夫して物語を書くことをねらいとする。まず、3種類の絵の組を見て、「物語の設定」について考えたことや想像したことを話し合い、自分の物語の絵を選んで自分の「物語の設定」を考える。そして、物語の組み立てを考え、「人物カード」や「組み立てメモ」を基に物語を書く。最後に、書いた物語を互いに読み合い、楽しいと思ったところや面白いと思ったところを伝え合う。ここでは、今までの物語の学習で学んだことを振り返らせ、「最初はAだったが、Bによって、最後はCになる話」を書くということを確認する。そこから、中心人物や、変化について考えさせる。 時間的な都合がつけば、5年生が4年生の作った作品を読み、感想を伝えるなど、一部の活動への5年生の参加も考えられる。 5年は、古文を読んで気付いたことや感じたことについて話し合ったり、自分の考えを書いたりして、自分の考えを広げることがねらいとして学習する。まず、学習課題を確かめた後、「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくのほそ道」をそれぞれ音読し、言葉の響きを味わう。それから、四つの古文から好きなものを一つ選び、気付いたことや感じたことについて、同じ作品を選んだ友達と話し合い、選んだ古文について、自分の考えを書く。 そして、5年生は4年生へ音読を発表し、4年生が5年生に古文の音読を聞いての感想を伝えるようにする。そうして、4年生が来年学習する古文への理解のきっかけになるように努める。
10	○くらしの中の「和」と「洋」について調べよう 読 くらしの中の和と洋 ・目的に合わせて調べよう	14	○和の文化について調べよう 読書 和の文化を受けつぐー和菓子とをさぐる	14 (+1)	I (単元の最後に交流の場を持つ。) *5年は、4年の学習とそろえるため、1時間増やして14時間扱いで行う。 4年は、何をどのように比べているかを読み取り、比較の仕方を意識して、調べたことをまとめることをねらいとする。まず、「くらしの中の和と洋」を読み、調べることを考える。そして、自分の課題について調べ、紹介文を書き、完成した紹介文を読み合い、感想を伝え合う。ここでは、教材文を読む際に、和室と洋室のそれぞれの良さを、どのような観点に沿って事例を挙げて説明しているのかを確認する。そして、和室と洋室にはそれぞれの良さがあることを押さえる。このように、実際に紹介文を書く前に、筆者の説明文の書き方の構成も確認させるようにする。 5年は、文章と資料を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりするといった「読むこと」と、目的に応じて資料を活用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことといった「書くこと」とをねらいとして学習する。まず、必要な情報を見付けたり、資料を使って説明したりするという学習課題を知り、「和の文化を受けつぐ」を読んで、筆者の説明の仕方を読み取る。特に、本論1の年表、本論2、3の写真の効果について考える。そうして、和菓子以外の「和の文化」について調べて情報を集め、情報を整理して報告の文章を書き、パンフレットを作る。 単元の最後には、4年がくらしの中の「和」と「洋」の紹介文を、5年が和の文化について調べた作品を展示し発表する。その際、4年は二つのものを比べる説明ができることを、5年はどうやって必要な情報を集めたかや、分かりやすく説明するためにどのように資料を使ったかについて評価できるように、教師が視点を示すようにする。
11	聞いてほしいな、心に残っている出来事 話聞	6	伝えたい、心に残る言葉 話聞	6 (+1)	II *5年は、4年の学習とそろえるため、1時間増やして6時間扱いで行う。 4年は、自分の感じたことが聞き手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して話すことをねらいとする。また、5年のねらいは、目的や意図に応じて、話の構成や表現を工夫して、伝えたいことが印象に残るように話すことができることである。 それぞれ話す内容を思い出したり調べたりして発表し、評価し合うという学習を行う。 4年は、まず、話題を決め、材料を集める。そして、話を組み立て、話す練習をする。最後にみんなの前で話す。 一方、5年は、伝えたいことが印象に残るように話すという学習課題を知り、心に残っている言葉を思い起こし、伝えたい言葉を決める。そして、話す材料を集めてメモに整理し、伝えたいことが印象に残るように、話の構成を考えて、話す練習をする。 そうして、単元の最後に、4年、5年が発表し、伝わったこと、発表して印象に残ったことを伝え合う活動を行う。 この単元では、4年と5年とが分かれて練習をすることや、4年が発表して5年が表現を工夫について評価する活動を組むようにする。
11	つなぐ言葉の働き 言葉	2	和語、漢語、外来語 言葉 ・話し言葉と書き言葉	2	I 4年は、接続する語句の働きを理解して正しく使うことをねらいとする。まず、接続する語句の働きについて学習課題を確かめる。次に、接続する語句の働きを理解する。そして、練習題を行い、接続語の使い方について理解を深める。ここでは、文節ごとに区切ったカードを用意し、並び替えたり置き換えたりするなど、子どもたちが自分たちでカードを操作して活動できるようにする。 5年は、和語、漢語、外来語の由来や区別について関心を持つことをねらいとして学習する。まず、教科書 p.164・165 から和語、漢語、外来語の説明を読み、ノートにまとめる。そうして、p.165 の練習題に取り組む。 4年は教科書の文例を利用すること、5年は教科書の内容を読み取りノートにまとめることといった、自分で学習を進める方法を取り入れることで、複式での授業を成立させていく。
12	○読んで考えたことを伝え合おう 読 ごんぎつね	13	○朗読で表現しよう 読 大造じいさんとがん	8	I 4年は、中心人物と他の人物との関わりについて考え、感想を伝え合うことをねらいとする。まず、人物どうしの関わりを考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。次に、「ごんぎつね」を読み、ごんと兵十の気持ちを考える。そして、物語を読んだ感想を友達と伝え合う。ごんと兵十の関係を読み取る際には、図を使ってごんと兵十の(心の)距離をかかせることで、全体の場での交流が行いやすくなると考えられる。また、物語を通した、兵十に対するごんの気持ちの変化にも気付かせることができる。 5年は、描写を基に中心人物の人物像を具体的に想像することをねらいとして学習する。まず、人物像を想像し、印象に残った場面を朗読で表現するという学習課題を知る。そして、「大造じいさんとがん」を場面毎に読む活動を行いながら、大造じいさんの人物像を想像する。特に、場面毎に大造じいさんの残雪への思いがどのように変化しているかをまとめていく。それから、いちばん印象に残ったところを朗読で表現し、朗読を聞き合い、それぞれのよさや、感じ方や考え方の違いを伝え合う。 この単元においては、学習材の内容を考慮し、4年、5年それぞれの学年内で読んだ感想を伝え合い、読書活動を広げることを行うことが可能である。これまでに読んだ、新美南吉・椋鳩十の他の作品について紹介したり、教室にそういった作品を並べて並行読書をさせたりして、同じ作者の作品を読み広げる読書のきっかけとしていく。

12	「ふるさとの食」を伝えよう 書 ・文末の書き方	9	反対の立場を考えて意見文を書こう 書 ・文章の種類	6	I 4年は、地域に伝わる料理や特産品の良さが読み手に伝わるように、自分が考える良さとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことをねらいとする。まず、教科書 p.54・55 の「ささかまぼこ」の紹介文を読み、単元のゴールのイメージを持つ。そうしてお薦めしたい地域に伝わる料理や特産品を決める。次に、お薦めするものの良さを伝えるために、根拠となる情報を収集する。そして、リーフレットの割り付けを考え、リーフレットを作成する。授業の始めに、写真などで地域に伝わる料理や特産品などを示し、興味を高めるようにするとよい。 5年は、自分の意見とその理由、反対意見への対応を明確にして、文章全体の構成や展開を考え、筋道の通った文章を書くことをねらいとして学習する。まず、教科書 p.186・187 の「クラスをよりよくしていくにはどうすればよいか」という話題と意見文を読む。そして、この意見文に対しての反対意見を予想し、その対応を考える。それから、説得力のある文章になるように構成を考え、構成メモを作り、メモを基に意見文を書く。 書き終えたリーフレットや意見文は、学級だけではなく全校の共有スペース(玄関・廊下など)に展示し、付箋をおいて置き、意見をもらうようにする。参観日などに合わせて展示することも考えられる。展示後は、4年は理由と事例が分かるように書けていること、5年は、反対意見を予想して意見文を書くことができていることを評価し合う。 なお、書いた意見文は残しておき、翌年以降のモデルとして活用できるようにしておく。
	じゆく語の意味を考える 言葉 ・ことばあつめ	3	熟語を使おう 言葉 ・ことばあつめ	3 (+1)	II *4年の学習と関連した内容が、5年の三学期にあるため、5年は3学期よりここへ移動して学習することとする。3時間目は4・5年がいっしょに行うこととする。 4年は、二字熟語の構成について理解し、文や文章の中で使うことができるようにすることがねらいである。まず、二字熟語を書いたカードを提示し、二字熟語の構成について学習するという課題を確かめる。次に、教科書 p.62-63 を読み、構成の五つの型を理解する。そして、練習題を行い、知識の定着を図る。 5年は、熟語の構成や使い方について理解することをねらいとして学習する。まず、教科書を読み、構成の五つの型を確かめる。そして、漢字の読み方と意味の関係を確かめ、その後、教科書の練習題に取り組み、理解を深める。この時、熟語③④の区別が難しいという声が児童から出る場合がある。そこで、二字の熟語の場合、③は上から訓読みをする(鉄橋:鉄の橋、再考:再び考える)、④は下から訓読みをする(読書:書を読む、乗馬:馬に乗る)という区別の仕方を伝えるようにする。 1・2時はこのように4年、5年が分かれて学習するが、3時間目は、5年が問題を出して4年が学んだことを基に答えるという、4年の学習の定着を図る1時間として設定する。そうすることで、5年にとっても熟語の振り返りができるようにする。
	本をみんなにすすめよう 読	4	友達といっしょに、本をしょうかいしよう 読	4 (+2)	III *4年といっしょに行うため、5年の学習時間を2時間増やす。内容によっては、3時間設定として、4年を1時間減、5年を1時間増にすることも考える。 4・5年いっしょに行う。本を読んで感じたり考えたりしたその本の魅力や良さを友達に伝えることや、本と本のつながりや自分と読書との関係を捉え直し、本を紹介し合い、読書生活を広げることがねらいとする。まず、本の魅力や良さを伝えるために、本を選ぶ。次に、伝える方法について特徴や書く内容を理解し、自分の薦める方法を決める。そして、選んだ方法で、薦めたい本の魅力や良さを伝え合う。次に、教科書の例を参考に、つながりのある本を紹介する、自分と読書との関わりを紹介する、いずれかのテーマを決め、グループで本を紹介する。そして、発表を聞き、読んでみたい本について伝え合う。その後、友達と話したことを基にして、これからの読書生活について考える。単元の最後には、互いに紹介し合った本を読み合う活動を取り入れる。
1	百人一首の世界 伝統 ・得意な札を見つけよう	3	古文のえがく四季 伝統	3	I (単元の最後に交流の場を持つ。) 4年は、短歌を音読して言葉の響きやリズムを感じ取ったりかきた遊びをしたりしながら、伝統的な文化を楽しむことがねらいである。まず、短歌を音読して、短歌について知る。次に、短歌を音読しながら言葉の響きやリズムを味わい、好きな歌を選ぶ。そして、グループでかきた遊びを行う。 5年は、古文とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、現代の自分たちと比べて考えることをねらいとして学習する。まず、「枕草子」とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、自分たちと比べてみるという学習課題を知る。そして、「枕草子」の作者のものの見方や考え方を、自分たちと比べながら捉え、四つの季節の中から好きなものを選び、自分が感じるその季節のよさを文章に書く。それから、書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 4年と5年で、同じ教材を扱って学習してもよい。4・5年ともに、昔の人のものの見方や考え方・感じ方と現代の自分との考え方の比較を行うことがテーマとし、単元の最後には、書いたものを読み合い、互いの考えを交流する。
	言葉で考えを伝える 言葉	6	心が動いたことを三十一音で表そう 書	4	I 4年は、自分の考えを相手に伝えるために大切なことを確かめ、文章を書くことに生かすことがねらいである。まず、事実と意見を区別して自分の考えを述べる大切さや、自分の考えを伝える際の言葉の使い方を捉える。次に、自分の考えを支える理由の述べ方を捉える。そして、自分の考えと理由の関係を捉える。最後に、自分の考えを伝えるためにどのような点に気をつけるとよいかを振り返って、これからの学習や生活に生かそうという意識を高める。 5年は、生活経験から題材を選び、全体の構成や書き表し方などに着目して、表現を整えて書くことをねらいに行う。5年教科書 p.204・205 の作品例を読み合い、短歌の形式で、生活の中での発見や感動を表現するという学習課題をつかむ。それから必要に応じて、連想メモ使って題材を集める方法も試す。なお、短歌形式では、『はがき歌』全国コンテスト(松山市立子規記念博物館)など、各種コンクール等の入選作品を参考にするとよい。そして、できた作品を読み合い、感想を伝え合ったり、表現のよさや工夫を見つけて共有し合ったりする。
	○日本語の数え方について考えよう 読 数え方を生み出そう	11	○テクノロジーの進歩について考えよう 読 「弱いロボット」だからできること	7	I 4年は、筆者の考えを読み取り、日本語の数え方に対する自分の考えをまとめることがねらいである。まず、「数え方を生み出そう」を読み、筆者がどのように自分の考えを述べているかを確かめる。次に、筆者の述べていることに対して、思ったことや考えたことを話し合うとともに、日本語の数え方についての自分の考えを書く。最後に、筆者の考えを参考にして、新しい数え方を考える。 5年は、あるテーマについて、異なる面から見た複数の文章を読んだり自分の経験や知識と照らしたりしながら多角的に捉え、自分の考えを深めることをねらいとして学習する。学習課題を確かめた後、テクノロジーの進歩について、知っていることや思ったことを話し合い、単元に入る準備をする。そして、「『弱いロボット』だからできること」を読み、書いてあることを確かめたり、「資料」の内容について考えたりする。特に、「弱いロボット」という題名を聞いて思ったことを出しておき、最後まで読み終えたとき、改めて「弱いロボット」という題名をつけた筆者の意図について話し合い、理解することに努める。そうして、テクノロジーと私たちの関わりについて、自分の考えをまとめ、書いた文章を読み合い、互いの考えのよいところや自分の考えと違うところについて話し合い、単元に入る前と、今では自分の考えがどのように変容したかをまとめる。 この単元では、4・5年の交流を特に設定しない。
2	調べたことをほうこくしよう 話聞	9	資料を見て考えたことを話そう 話聞	5	II 4年は、アンケートの結果について分かりやすく伝えるために、話の構成を考え、話し方を工夫して話すことがねらいである。まず、グループごとに、生活について調べることを決める。次に、グループで話し合い、アンケートを作って調べる。そして、アンケートの結果をまとめる。最後に、組み立てを考え、話す練習をし、調べたことを報告する。 5年は自分の考えが明確に伝わるように、話の構成を考え、資料と関係付けて話すことをねらいとして学習する。資料から分かったことを基に、自分の考えを発表するという学習課題を知り、資料を読み、自分の考えをまとめる。それから、最も伝えたいことは何か、どの資料からどういうことを考えたのかが明確になるように、話の構成を考える。そうして、自分の考えを資料と関係付けて発表し、自分の考えを明確に伝えるために、どんなことに気を付けて話の構成を考えたり資料を使ったりしたかを振り返る。 単元の最後には、説明したり報告したりする活動を通して交流する。
			日本語と外国語 言葉 ・方言と共通語	4	I (5年のみ) *5年は、「資料を見て考えたことを話そう」の発表の準備をした後、「日本語と外国語」の学習を行う。 日本語と外国語を比べ、日本語の特徴を考えるという学習課題を確かめる。英語と比較しながら、音と文字の関係について、日本語の特徴を捉える。それから、文の組み立てと語順について、日本語の特徴を捉える。そして、他の国の言葉についても調べ、分かったことや考えたことをまとめる。

2	○読んで感じたことを伝え合おう 読 世界一美しいぼくの村	13	○伝記を読んで感想文を書こう 読 手塚治虫	7	I	<p>* 4年は、学習の順序を入れ替えて、「同じ読み方の漢字」の前に「世界一美しいぼくの村」の学習を行う。</p> <p>4年は、物語の結末について感じたことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことがねらいである。まず、「世界一美しいぼくの村」を読んで、感じたことや考えたことを伝え合う。次に、ヤモの思いを考え、感想を伝え合う。そして、「世界一美しい村へ帰る」を読んで、感想を深め、伝え合う。最後に、二つの物語のそれぞれの終わり方について、どのようなことを感じたかを振り返る。ここでは、ヤモが、自分が住んでいる村が世界一美しく、大好きだということ、戦争に行ったお兄さんをととても心配しているという思いをしっかりと押さえる。また、「世界一美しいぼくの村」では、最後の一文が衝撃的な終わり方になっている。そこから、ヤモたちが一体どうなったのか、大好きな村がなくなったヤモの思いにも触れさせたい。</p> <p>5年は、伝記に描かれている人物の考えや生き方を読み取り、自らの考えを深めることをねらいとして学習する。伝記に描かれている人物の考えや生き方を読み取り、感想文を書くという学習課題を知り、その準備として手塚治虫の伝記を読むという学習の見通しを持つ。そして、教科書より、手塚治虫の考えや生き方を読み取る。このとき、年表のワークシートに出来事を書き込みながら読む活動を行い、考えや生き方をしっかりとつかむ。そうして、興味を持った人物の伝記を読み、感想文を書く。このとき、手塚治虫との共通点や自分の感想の共通点も加えて、感想を膨らませるよう促す。</p>
	同じ読み方の漢字 言葉 ・都道府県の漢字 ・キーボードの入力と漢字	3			I (4年のみ)	<p>* 5年は、指導時間の関係で、この単元を行わない。</p> <p>漢字にはそれぞれ意味があることを理解し、同音・同訓の漢字を正しく使い分けることをねらいとする。まず、同じ読み方の漢字について、正しく使い分けるとい学習課題を確かめる。次に、漢字には一字一字意味があることを確かめ、同音異字・同訓異字の使い分けの練習をする。そして、いろいろな同音異字・同訓異字を探し、それらを正しく使い分けた文を考える。最後に、都道府県名で用いられる漢字を確認し、同じ読み方の漢字について、学習したことを振り返る。</p>
3	「言葉のタイムカプセル」を残そう 書	7	「わたしの文章見本帳」を作ろう 書	4	II	<p>4年は、1年間に書いた文章を読み返し、文章を書く学習を通じた自分の成長を振り返るとともに、学習したことを生かして、十年後の自分に伝えたいことを手紙に書くことをねらいとする。まず、1年間で書いた文章を読み返し、1年間で振り返る。そして、十年後の自分に手紙を書き、「わたしのベストブック」を作る。</p> <p>5年は、文章の種類ごとに整理しながら1年間で書いた文章のよさを見付け、そのよさを生かして、書いた文章を別の種類の文章に書き換えることをねらいとして学習する。文章のよさを見付けて生かし、別の種類の文章に書き換えるという学習課題を知り、1年間で書いた文章を読み直す。そして、教科書 p.267 を参考にして種類ごとに整理する。それから、書いた文章の中から一つ選び、文章の種類を換えて書き、学級でまとめて文章見本帳を作る。この見本帳は、来年度の5年生の学習資料として活用しておくことを伝える。</p> <p>単元の最後には、互いに書いた文章を読み合ってもよい。</p>